



電車でのアクセス

- 大阪方面から (JR利用)**
- 大阪駅 (紀州路快速) → 和歌山駅 (約1時間30分)
 - 新大阪駅 (特急列車) → 和歌山駅 (約1時間) → 御坊駅 (約1時間45分) → 白浜駅 (約2時間30分) → 串本駅 (約3時間20分) → 紀伊勝浦駅 (約4時間)
- 大阪方面から (南海電鉄利用)**
- なんば駅 (特急列車) → 和歌山市駅 (約1時間) → 橋本駅 (約50分)
- 名古屋方面から (JR利用)**
- 名古屋駅 (新幹線) → 新大阪駅 (特急列車) → 和歌山駅 (約2時間10分)
 - 名古屋駅 (特急列車) → 新宮駅 (約3時間30分)

車でのアクセス

- 大阪方面から**
- 吹田JCT → 和歌山IC (約1時間10分) → 御坊IC (約1時間50分) → 南紀白浜IC (約2時間30分) → すさみ南IC (約2時間50分) → 那智勝浦IC (約3時間50分)
- 名古屋方面から**
- 名古屋西JCT → 和歌山IC (約3時間00分) → 那智勝浦IC (約3時間20分)

和歌山県に関するお問い合わせ

和歌山県観光振興課・(公社)和歌山県観光連盟
 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1
 ☎073(441)2775 / ☎073(422)4631 FAX073(432)8313

わかやま紀州館
 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館地下1F
 ☎03(3216)8000 / FAX03(3216)8002

和歌山県名古屋観光センター
 〒460-0008 名古屋市中区栄4-16-36 久屋中日ビル4F
 ☎052(263)7273 / FAX052(265)0327



わかやままるスタンプラリー

わかやま 歴史物語

モバイルでらくらくスタンプラリー

人物編 (江戸～近代)

徳川頼宣 紀州徳川家初代藩主



濱口梧陵 (ア・リビング・ゴッド(生ける神))



チェックポイントを巡りスタンプを集めると、抽選で賞品が当たる!!

陸奥宗光 カミナリ大臣



華岡青洲 世界初! 麻酔手術の先駆者



有吉佐和子 時代をリードした作家



南方熊楠 博物学の巨匠



佐藤春夫 望郷の詩人



わかやま歴史物語とは

～100のストーリーで大人の知的好奇心を満たす和歌山の旅～

神話の時代から近代に至るまで、和歌山県内各地に残る歴史を「100の旅モデル」として特設Webサイトで紹介しています。

ストーリーごとに、歴史資産だけでなく、その歴史にまつわる秘話や併せて立ち寄りしたいSNS映えスポットにグルメ、温泉、体験なども掲載し、歴史を学びながら和歌山を丸ごと楽しめるモデルコースをご提案。

歴史の舞台を巡り、悠久のロマンを追体験できる大人の旅を。



詳しくは…WEBサイトをCHECK!!

わかやま歴史物語 検索



わかやま歴史物語 人物編(江戸～近代)

全28ストーリー

- 1 井沢弥惣兵衛為永(いざわ やそべためなが)
全国に轟く紀州流土木工法! 亀池と井沢弥惣兵衛の遺徳を偲ぶ……………7
- 2 陸奥宗光(むつ むねみつ)
“カミソリ大臣” 陸奥宗光誕生のルーツを探る……………8
- 3 南方熊楠(みなかた くまぐす)
紀州生まれの知の巨人・南方熊楠の基礎を築いたゆかりの地……………9
- 4 保田龍門(やすだ りゅうもん)
母性を終生追い続けた彫刻家 保田龍門 ～母を思う子、子を思う母～……………10
- 5 徳川頼貞(とくがわ よりさだ)
西洋音楽振興の貢献者「音楽の殿様」徳川頼貞……………11
- 6 華岡青洲(はなおか せいしゅう)
世界初! 麻酔手術の先駆者、華岡青洲……………12
- 7 白洲正子(しらす まさこ)
随筆家・白洲正子も愛した「高天原」 天野の里……………13
- 8 伊藤孫右衛門(いとう まごえもん)
多くの江戸っ子の舌を唸らせた紀州みかんのルーツをたどる……………14
- 9 濱口梧陵(はまぐち ごりょう)
稲むらの火の舞台～濱口梧陵が守った広川町から防災を学ぶ～……………15
- 10 有吉佐和子(ありよし さわこ)
小説『有田川』の舞台。有吉佐和子が描いた近代……………16
- 11 角屋甚太郎(かどや じんたろう)
鯉節発祥の地・印南。漁民3人衆の功績を訪ねる……………17
- 12 芳澤あやめ(よしざわ あやめ)
歌舞伎の女形日本一! 芸に生きた芳澤あやめ……………18
- 13 徳本上人(とくほんしょうにん)
参詣者が1日数万人? 偉大な念仏行者 徳本上人……………19
- 14 ヨハネス・クヌッセン
海の勇者 ヨハネス・クヌッセン機関長～デンマークと日本の友好の原点～……………20
- 15 安藤直次(あんどう なおつぐ)
頼宣の懐刀! 徳川家に忠誠を誓った付家老・安藤直次……………21
- 16 山本玄峰(やまもと げんぼう)
本物の禅僧・山本玄峰の足跡を訪ねて……………22
- 17 南方熊楠(みなかた くまぐす)
「知の巨人」南方熊楠とその研究を支えた熊野の人々……………23
- 18 植芝盛平(うえしば もりへい)
世界140の国と地域で愛好される武道! 合気道の開祖・植芝盛平……………24
- 19 水野忠央(みずの ただなか)
吉田松陰も恐れた! 幕末の開明家・国学者 水野忠央……………25
- 20 南方熊楠(みなかた くまぐす)
那智の大自然に夢中? 粘菌採集に明け暮れた南方熊楠の熊野滞在……………26
- 21 東くめ(ひがしくめ) / 西村伊作(にしむら いさく) / 佐藤春夫(さとう はるお)
城下町新宮に息づく、世界レベルの「文化のDNA」……………27
- 22 夏目漱石(なつめ そうせき)
夏目漱石が歩いた和歌山の軌跡をたどる旅……………28
- 23 有吉佐和子(ありよし さわこ)
有吉佐和子の代表作、小説『紀ノ川』の舞台を歩く……………29
- 24 徳川治宝(とくがわ はるとみ)
生きながらにして神様? 「従一位」に叙せられた名君 徳川治宝……………30
- 25 徳川頼宣(とくがわ よりのぶ)
和歌山を発展させた徳川頼宣の都市計画と文化継承……………31
- 26 和佐大八郎(わさ だいはちろう)
日本一の弓術家・和佐大八郎の偉業をたどる……………32
- 27 長沢芦雪(ながさわ ろせつ)
「奇想の画家」長沢芦雪が南紀でみせた目醒めの足跡……………33
- 28 司馬遼太郎(しば りょうたろう)
行きたい街道日本一! 司馬遼太郎も旅した道・古座街道をゆく……………34

わかやまスタンプラリー

わかやま歴史物語 人物編 (江戸～近代)

スタンプラリー概要

「わかやま歴史物語100」の中から、江戸時代以降に活躍した人物にゆかりある28の旅モデルを巡るスタンプラリー。

ルール

- ① 28の旅モデルに各3箇所、チェックポイントを設定。
- ② 旅モデル毎に設定した3箇所すべてでチェックすると、当該旅モデルのスタンプを1つ獲得。
- ③ 獲得したスタンプ数に応じてA～C賞の応募権を得る。

実施期間

2022年 2月28日(月)まで



スタンプ獲得数に応じて豪華景品が当たる!

旅モデルを巡り、スタンプを集めて、豪華景品が当たる抽選に応募しよう!

- 25個 A賞…1万円相当のプレミア和歌山商品 10名様
- 20個 B賞…5千円相当のプレミア和歌山商品 20名様
- 10個 C賞…3千円相当のプレミア和歌山商品 30名様

28の旅モデル

全てのスタンプを集めた方には…
「完全達成賞」を
応募者全員にプレゼント!



全28のスタンプ
デザインを使用した
特製マグカップ

※イメージです。

和歌山県優良農産品 プレミア和歌山

- わかやまの逸品「プレミア和歌山」とは…
- ◎和歌山県内で生産・製造されたもの
- ◎安心・安全を重視したもの
- ◎和歌山らしさ、和歌山ならではのもの

これらの観点から県が優良な農産品を認定・推奨する制度。プレミア和歌山推奨品は、右のマークが目印。ぜひ、このマークがついた推奨品をお買い求めください。



スタンプラリー参加方法

用意するのはスマホだけ!
アプリダウンロードで、誰でも簡単に始められる!

アプリの使い方は簡単!! スタンプ台紙いらずで、らくらくスタンプラリー!

1 まずはアプリをダウンロード



Androidの場合はGoogle Playから、iOSの場合はApp Storeからアプリをダウンロードしてください。

2 アプリ起動&ログイン



アプリを起動し、必要な情報を入力し、新規登録!スタンプラリーを始めましょう!

3 スタンプラリー開始!



スタンプラリーのルールを確認し、スポットを検索。そのスポットを目指しましょう!

4 アプリでチェックイン!!



チェックポイントに到着後、チェックインボタンからスポットを選択し、チェックイン!

5 スタンプ数に応じた景品の応募権をゲット



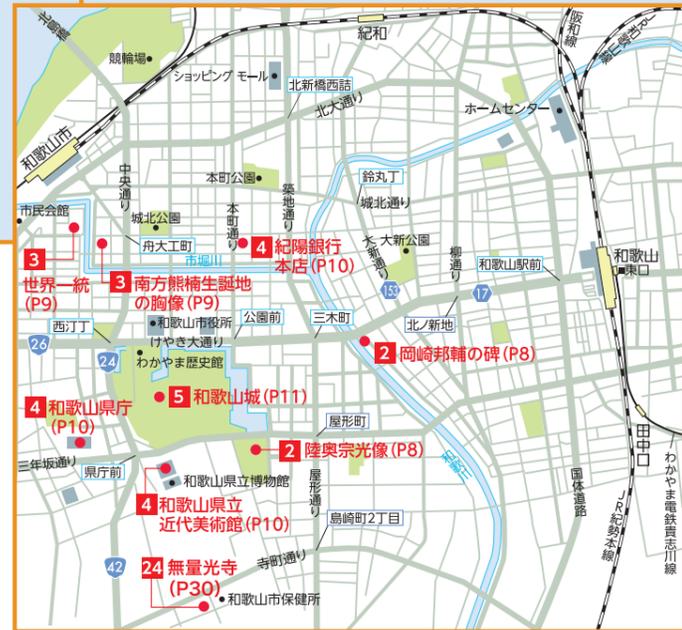
各ストーリーに3箇所あるチェックポイントを巡るとスタンプを獲得! スタンプを集めて、豪華景品が当たる抽選に応募しよう!



アプリのダウンロード・利用は無料です。

わかやま・まるごとスタンプラリー

検索





全国に轟く紀州流土木工法！ 亀池と井沢弥惣兵衛の遺徳を偲ぶ



人物 井沢弥惣兵衛為永
(いざわ やそべためなが)
承応3年(1654)～元文3年(1738)

江戸時代の紀州・溝ノ口村(現在の海南海市野上新)に生まれました。幼い頃から算数に関わる書物を読みあさったほど計算に強く、土木技術についても才能に恵まれていました。夜の測量のおり、ポール代わりにロウソク数本を立てただけで、溝底の高低を実測したところ、これが実に正確だったと言われるほど天賦の才能を秘めていました。

享保7年(1722)に將軍徳川吉宗に招かれ幕府の役人となってから、数々の治水灌漑工事を手がけています。吉宗が「米將軍」と賞賛された背景には、弥惣兵衛の新田開発と高い水利灌漑技術に支えられていたといわれています。

モデルコース

弥惣兵衛が造成
周囲約4kmの県下最大級の溜池
亀池
四季折々の色に染まる山々が
見渡せる絶景スポットにある
井沢弥惣兵衛翁之碑 MAP P5 E-8
☎073-483-8461(海南海市産業振興課)
海南海市阪井418 散策自由

車で10分
常設展示コーナーで弥惣兵衛の功績を紹介
海南海市歴史民俗資料館 MAP P5 F-9
☎073-487-3808 海南海市木津233-23
9:00～16:30 定休:月・火曜、12/29～1/3

車で5分
神仏への信仰が厚かった弥惣兵衛も深く敬った寺
法然寺
☎073-487-0179 海南海市沖野々553 境内自由

車で10分
弥惣兵衛の菩提寺
宗光寺 MAP P5 G-8
☎073-487-0407 海南海市溝ノ口61 境内自由

車で5分
洋風モダンでのんびりした雰囲気のカフェ
Cafe 亞曼
☎073-489-2551 海南海市紀美野町下佐々208
9:00～19:00(LO18:30) 定休:日・月曜、祝日

車で30分
弥惣兵衛の遺物である寄進状や手水鉢が現存
野上八幡宮
☎073-489-2162 海南海市紀美野町小畑625
境内自由

車で10分
弥惣兵衛の生家近くに建ち、その偉業を今に伝える
井沢弥惣兵衛顕彰碑
☎073-483-8461(海南海市産業振興課)
海南海市野上新 散策自由



亀池
弥惣兵衛により宝永7年(1710)に灌漑用池として、わずか3カ月で造られた溜池。当時、この池のおかげで約7000人分の米の収穫が可能となった。

井沢弥惣兵衛は、28歳で2代藩主光貞に召し抱えられ5代藩主となった吉宗にも仕えました。同じ土木技術者の大畑才蔵と共に小田井用水(約33km)や藤崎井用水(約24km)などの工事を手掛け、紀州流土木技術を開発。海南海市の亀の川を改修して新川を築き、亀池築造の大事業も成し遂げました。その後8代將軍に就任した吉宗に召され幕府の役人となり、関東平野の新田開発に着手。利根川と荒川を結び見沼代用水(埼玉県)の難工事も見事に成し遂げました。故郷の暮らしを豊かにした、弥惣兵衛が遺した功績をたどってみましょう。



井沢弥惣兵衛翁之碑
亀池内の柵のない堤防からは、双青閣が見え、四季折々の色に染まる山々が見渡せる絶景スポット。その傍には、亀池を見守るように井沢弥惣兵衛翁之碑が立てられています。



宗光寺
弥惣兵衛の菩提寺である宗光寺。弥惣兵衛は基礎教養を宗光寺住職や野上八幡宮宮司などから受けたと考えられています。また、周辺の溝ノ口遺跡からは、縄文時代から室町時代までの住居や生活道具などが発見されました。



海南海市歴史民俗資料館
全国各地の新田開発や河川の改修に力を尽くした井沢弥惣兵衛の功績を紹介する常設展示コーナーでは、弥惣兵衛愛用の水差しや井沢家の家系図などの貴重な現物を見ることが出来ます。また、弥惣兵衛が測量に使用した水盛器(みずもりき)の縮小復元版も展示。弥惣兵衛の優れた知恵と技術に触れることが出来ます。

秘話 埼玉でも英雄として称えられている

和歌山県だけでなく埼玉県など関東地方でも新田開発や河川改修で功績がある井沢弥惣兵衛。埼玉県では、生誕350年を記念した平成17年(2005)10月23日に、さいたま市の見沼自然公園に功績を讃える銅像を建立。教科書の副読本にも記載されています。



“カミソリ大臣”陸奥宗光 誕生のルーツを探る



人物 陸奥宗光 (むつ むねみつ)
弘化元年(1844)～明治30年(1897)

紀州藩の重役であり国学者でもある伊達宗広の6子として現在の和歌山市に生まれました。後に姓を伊達から陸奥に改め、源二郎、陽之助、宗光と名乗りました。文久3年(1863)、海軍塾で勝海舟に師事し、そこで知り合った坂本龍馬の海援隊に参加。龍馬に「独立して自ら其志を行うを得るものは只余と陸奥のみ」と言わしめるほど手腕を發揮しました。

明治維新後は、津田出らとともに和歌山藩の藩政改革を実現させ、衆議院議員から農商務大臣などを務めたが、薩長藩閥政府のあり方に不満を持ち辞職しました。外務大臣として活躍したのち、明治29年(1896)に病氣療養のためその職を辞し、その翌年53歳で亡くなりました。

モデルコース

「和歌山市の偉人・先人」コーナーで
陸奥宗光などの功績を紹介
わかやま歴史館 2階展示室
☎073-435-1044 和歌山市一番丁3
9:00～17:30(最終入場17:00)
定休:年末年始 入場料=100円

車で5分
プライベートな姿を表した和装の銅像
陸奥宗光像 MAP P5 B-8
☎073-435-1044(和歌山城整備企画課)
和歌山市岡山丁3(岡公園内) 散策自由

車で5分
陸奥宗光の没後120年を記念して設置
陸奥宗光生誕地の碑 MAP P5 D-4
和歌山市吹上3 散策自由

車で5分
宗光の生家・伊達家から
移築したと伝わる主屋がある
郭家住宅
☎090-1983-1366(郭家住宅の会事務局)
和歌山市今福1-6-6
原則、毎月第2日曜に公開(10:00～15:00)

車で10分
宗光の従弟・岡崎邦輔の別荘で
あった建物の一部を改装したカフェ
純喫茶リエール
☎073-499-8698 和歌山市和歌浦中3-5-5
10:00～16:00 定休:火曜

車で15分
幕府の軍艦奉行であった勝海舟が宿とした地
勝海舟寓居地の碑文
和歌山市舟大工町28 散策自由

車で7分
実業家であり、農林大臣も
務めた岡崎邦輔の胸像
岡崎邦輔の碑 MAP P5 C-8
和歌山市南材木町3-1 散策自由



郭家住宅
明治10年(1877)に紀州藩の御典医だった郭百輔が建築。数寄屋造りの座敷は宗光の生家・伊達家から移築された
と伝わる。

紀州藩士・伊達宗広の6子として生まれた陸奥宗光。慶応3年(1867)には坂本龍馬の海援隊に入り、さまざまな人物と交流を深めていきました。明治維新後、第2次伊藤博文内閣で外務大臣となり、江戸時代に結ばれた不平等条約の治外法権の撤廃や日清戦争の講和条約(下関条約)を結ぶなどの偉業を達成。博学で頭の良い宗光を人々は「頭の切れる者(頭の回転が早い)」という意味を込めて「カミソリ大臣」と呼んだといわれています。その功績の原点を訪ねましょう。

陸奥宗光像

明治政府の外務大臣として活躍をした陸奥宗光。その功績を讃えた銅像はここ岡公園のほかに、東京の外務省敷地内にもあります。和歌山城近くにある岡公園の宗光像はスーツ姿ではなく、和装であることから、よりプライベートな姿を表しています。銅像そばには、外務省から贈られたソメイヨシノが植えられています。



陸奥宗光生誕地の碑
平成29年(2017)、陸奥宗光の没後120年を記念して設置されました。「陸奥宗光伯生誕地」と刻まれた石碑と案内看板が立っています。

岡崎邦輔の碑
けやき大通りの新町橋近くに行む、陸奥宗光の従弟である岡崎邦輔の胸像。政界の覆業師の異名を持つほどの策士として知られるほか、実業家としても活躍しました。浪沢栄一らとともに京阪電気鉄道の設立に携わり、大正6年(1917)には社長に就任、阪和電気鉄道(現・JR西日本阪和線)の設立に尽力しました。

秘話 「陸奥」の名に見る、宗光の気概

陸奥宗光の旧姓は実は伊達といわれています。「陸奥」という名字を名乗ることになったのは、宗光の意向によるものだろう。伊達が陸奥の国の一部の地名であるため、一郡よりも一国の名を名乗ることで志を大きく持ち、全国に雄飛しようという幕末～明治期の気風を表していたのかもしれない。



紀州生まれの知の巨人・南方熊楠の基礎を築いたゆかりの地

詳細情報



人物 南方熊楠 (みなかた くまぐす) 慶応3年(1867)~昭和16年(1941)

和歌山県が生んだ生物学の巨星・南方熊楠は和歌山市橋丁に生まれました。幼少より抜群の記憶力に恵まれ、知的好奇心に満ち溢れていました。和歌山中学校(現・桐蔭高校)を卒業後、上京。明治17年(1884)に東京大学予備門に入学しますが、2年で退学し、帰郷しました。その後、19歳から約14年間、アメリカ、イギリスなどへ海外遊学。さまざまな言語の文献を使いこなし、国内外で多くの論文を発表しました。研究の対象は、変形菌(粘菌)のほか菌類・藻類等の植物学、人文科学等多方面にわたり、民俗学の分野では柳田国男と並ぶ重要な役割を果たしました。生涯、在野の学者に徹し、地域の自然保護にも力を注いだエコロジストの先駆けとしても注目されています。

モデルコース

熊楠生誕地に立つ胸像

チェックポイント **南方熊楠生誕地の胸像** MAP P5 A-7 和歌山市橋丁34 散策自由

車ですぐ

南方家は明治5年(1872)に寄合町に移転 熊楠が少年時代を過ごした地

寄合町

和歌山市寄合町 散策自由

徒歩ですぐ

熊楠の父・弥兵衛が創業した 南方酒造(現・世界一統)

チェックポイント **世界一統** MAP P5 A-7 ☎073-433-1441 和歌山市湊紺屋町1-10 10:00~17:00(直売所) 定休:土・日曜、祝日、年末年始

車で10分

和歌山の特産品を生かしたチョコレート専門店

toco*towa

☎073-446-2311 和歌山市塩屋4-6-57 10:00~17:00 定休:水曜

車で6分

熊楠は明治34年(1901)5月、玉津島神社の東隣にあった旅館・芦辺屋で孫文と再会

玉津島神社

☎073-444-0472 和歌山市和歌浦中3-4-26 境内自由(社務所9:00~17:00)

車で35分

明治34年(1901)5月に加太を訪れた熊楠は 境内の店で食事をとった

淡嶋神社

チェックポイント MAP P3 B-2 ☎073-459-0043 和歌山市加太118 9:00~17:00(宝物殿は要予約) 宝物殿入館料=300円 境内自由

徒歩ですぐ

熊楠は加太の海に入って海藻などを採集した

加太港

☎073-435-1234 (和歌山市観光課) 和歌山市加太 散策自由



「和漢三才図会」と「本草綱目」(南方熊楠記念館)

日本のダ・ヴィンチとも称される博覧強記の天才学者、南方熊楠。父・弥兵衛は熊楠の才能を伸ばすため、当時の商人の家としては珍しく、開設されたばかりの和歌山中学校(現・桐蔭高校)に入学させました。この頃から知識欲は益々高まり、当時の百科事典にあたる『和漢三才図会』105冊の抄写や、植物図鑑である『本草綱目』等の筆写を5年余りで完成させたと言われています(※)。それらの書籍が身近にあった当時の城下町・和歌山の文化環境が、その後の熊楠に影響を与えたと考えられています。

※熊楠が写した『和漢三才図会』や『本草綱目』の一部は、和歌山県白浜町の南方熊楠記念館と田辺市の南方熊楠顕彰館に所蔵されています(P23でも南方熊楠記念館と南方熊楠顕彰館を紹介)。

南方熊楠生誕地の胸像

南方熊楠生誕地に立つ胸像。熊楠は、慶応3年(1867)4月15日、父・弥兵衛と母・スミの次男として、和歌山城下橋丁で生まれました。日高郡入野村(現日高川町)出身の父・弥兵衛は、橋丁の両替商清水平右衛門の大番頭を勤めた後、独立して商売に成功。「熊楠」の名は、熊野王子社である藤白神社と同社の楠神にちなんだものです。



世界一統

熊楠の実家である南方酒造は父・弥兵衛が明治17年(1884)に創業。熊楠の研究活動は、実家の恵まれた経済環境に支えられていました。現在の社長・康治氏は6代目。熊楠をモチーフにした大吟醸など日本酒もオンラインショップや酒販店にて販売。県内を中心に各観光施設や販売店での試飲会にも参加しています。



淡嶋神社

淡島信仰発祥の地で、全国1000社余りある淡嶋神社系統の総本社。少彦命(すくなひこのみこと)を祀り、婦人に関わる効験があるとされ、安産や子授け祈願に多くの女性が訪れています。熊楠はイギリスからの帰国後、明治34年(1901)5月に加太を訪れ、淡嶋神社境内の店で食事を取り、加太の海に入って海藻などを採集しました。

秘話 熊楠は大の甘いもの好き

甘いもの好きで知られる熊楠は、なかでもあんぱんが大好き。意中の女性には「大好き」という気持ちを表現するために30個ものあんぱんを贈ったというエピソードが残っています。



母性を終生追い続けた彫刻家 保田龍門~母を思う子、子を思う母~

詳細情報



人物 保田龍門 (やすだ りゅうもん) 明治24年(1891)~昭和40年(1965)

粉河中学校を卒業後、東京美術学校西洋画科に入学し、美術学校在学中に二科展に出品し入選。大正6年(1917)の第11回文展では「母と子」で特選を受賞します。その後、日本美術院の研究所で彫刻の勉強をはじめ、以後日本美術院展覧会を発表の場としました。

大正9年渡米し、サンフランシスコ、ニューヨークを経て翌年にはパリに入り、ロダンの助手であったブールデルの教室で彫刻を習いました。

帰国後は、東京での制作をやめ、郷里の和歌山に西村伊作設計のアトリエを建て活動の本拠を移しました。

モデルコース

龍門作の2つのレリーフを設置

チェックポイント **和歌山県庁** MAP P5 A-8 ☎073-441-2775 (和歌山県観光振興課) 和歌山市小松原通1-1 9:00~17:45 定休:土・日曜、祝日、年末年始

徒歩で5分

龍門作の松下幸之助とむめ夫人のブロンズレリーフを展示

わかやま歴史館 2階展示室

☎073-435-1044 和歌山市一番丁3 9:00~17:30(最終入場17:00) 定休:年末年始 入場料=100円

車で5分

高さ8mの壁面に龍門作の4大作が並ぶ

チェックポイント **紀陽銀行本店** MAP P5 B-7 ☎073-423-9111 和歌山市本町1-35 9:00~17:00(問合電話受付) 定休:土・日曜、祝日

車ですぐ

「平牧三元豚の特厚ロースカツ膳」がおすす

庄内

☎073-488-1830 和歌山市本町2-1フォルテウジマ7F 11:30~15:00(LO14:00)、17:00~21:00(LO20:00) 定休:月曜

車で10分

保田龍門のスケッチをもとに 息子の春彦によって制作された像

陸奥宗光像

和歌山県岡田山3(岡公園内) 散策自由

車ですぐ

敷地内のエントランスには 息子の春彦の彫刻作品を展示

チェックポイント **和歌山県立近代美術館** MAP P5 B-8 ☎073-436-8690 和歌山市吹上1-4-14 9:30~17:00(最終入場16:30) 定休:月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始 常設展=350円

近代美術館内のブックカフェ

Bring Book Store

☎073-425-4344 和歌山県立近代美術館2F 11:00~17:00 定休:月曜(祝日の場合は翌日)



『古事記』丹生都比賣命(にうつひめのみこと) (和歌山県庁本館)



高倉下命(たかくらじのみこと) (和歌山県庁本館)

保田龍門は、明治24年(1891)5月に那賀郡龍門村荒見(現在の紀の川市)に生誕。東京で開かれていた文部省美術展覧会で菱田春草の『落葉』に出会い、美術の道を目指します。母は学資を工面し、龍門は大正元年(1912)、東京美術学校(現在の東京藝術大学)西洋画科に入学。大正9年に渡米、翌年にはパリに渡って彫刻を学びました。戦後は大阪市立美術研究所、和歌山大学学芸学部(現在の教育学部)で後進の指導にあたり、関西の美術界に大きな影響を与えました。

和歌山県庁

和歌山県庁本館には、保田龍門作の『古事記』『日本書紀』を題材とした2つのレリーフが設置されています。3~4階の踊り場には『古事記』に登場する、天照大神の妹君「丹生都比賣命(にうつひめのみこと)」、2~3階の踊り場には、神武東征神話に登場する「高倉下命(たかくらじのみこと)」が来庁者を迎えてくれます。



紀陽銀行本店

銀行が建ち並ぶ金融街・和歌山市本町通りにある、紀陽銀行本店。地上約8mの高さの壁面には、保田龍門によるレリーフの大作4作品があります。北側から順に林業(春)、漁業(夏)、柑橘(秋)、繊維(冬)と和歌山県の主要産業や物産を表しています。



和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館ではコレクション展や企画展で、保田龍門・春彦父子の作品を展示することも。敷地内のエントランスには春彦の彫刻作品『球を覆う幕舎』(ステンレススチール/1994年)が展示されています。

秘話 南方熊楠の死後、デスマスクを制作

昭和16年(1941)12月29日、74歳の生涯を閉じた南方熊楠。その夜、依頼を受けた保田龍門が南方家に駆けつけ、一晩かかってデスマスクを取りました。「南方熊楠記念館」では、松江夫人が保全した、熊楠が遺した蔵書や原稿、研究資料などと共に、このデスマスクを見ることが出来ます。



西洋音楽振興の貢献者 「音楽の殿様」徳川頼貞

詳細情報



人物 徳川頼貞 (とくがわ よりさだ)
明治25年(1892)～昭和29年(1954)

御三家である紀州徳川家の第16代当主。紀州徳川家第15代頼倫の長男として東京府(現在の東京都)の紀州徳川家本邸で生まれました。

学習院高等科を経て、イギリス・ケンブリッジ大学に学びました。昭和14年(1939)貴族院議員、昭和22年第1回参議院議員選挙に当選し、外務委員長、国連国会議員連盟会長、ユネスコ国会議員連盟会長などを歴任しました。音楽愛好家として知られ、ベートーヴェンの自筆楽譜など貴重な文献や古楽器を収集するとともに、本格的な音楽堂を建設するなど、西洋音楽の普及に尽力しました。晩年にはバリ高等音楽院名誉評議員を務めました。

モデルコース

頼貞は和歌山城に相当な愛着をもっていたといわれる

和歌山城

和歌山市一丁目
天守閣9:00～17:30(最終入館17:00)
定休:年末 散策自由(天守閣は入場料410円)

車で5分

豊かな海山の幸を生かした伝統的日本料理を提供

あおい茶寮

和歌山市谷町38
11:00～14:00(LO13:00)
17:00～22:00(LO21:00) 定休:月曜不定休

車で10分

頼貞が集めた貴重な資料を閲覧できる

和歌山県立図書館 (南葵音楽文庫閲覧室)

和歌山市西高松1-7-38
9:00～19:00、土・日曜、祝日は～18:00
定休:月曜、第2木曜ほか休館日あり、年末年始

車で15分

名手酒造店の地酒など和歌山の特産品を販売

黒牛茶屋

和歌山市黒江846
10:00～17:00 定休:年末年始

車で20分

紀州徳川家の菩提寺
本堂・多宝塔・大門は国宝

長保寺

海南市下津町上689
拝観 9:00～16:00 拝観料=300円



J.F. ヴォグナー (1856年-1908年) の楽譜 (和歌山県立図書館 南葵音楽文庫閲覧室)

明治25年(1892)に誕生した頼貞。幼少期から音楽に興味をもち、21歳の時にイギリス・ケンブリッジ大学に留学。西洋音楽に傾倒し、日本に本格的な音楽堂を作りたいと東京に南葵音楽堂を完成させますが、関東大震災で破損してしまいました。頼貞は私財を投じ、楽譜や音楽関連の資料を収集し、音楽図書館を開館。紀州徳川家の莫大な財産をわが国の将来へ向けての資産に組み替え、困難な時代のなかでもコレクションを公開し続けました。



和歌山城

父祖の城である和歌山城に、頼貞は相当な愛着をもっていたそうと、和歌山大空襲で天守閣が焼失した際には暗然とした気分になったといえます。再建された城を見ることなく亡くなってしまいました。頼貞と家族、友人と共に焼失前の和歌山城にて撮影された写真は、和歌山県立図書館に残されています。

和歌山県立図書館(南葵音楽文庫閲覧室)

2万点を超える南葵音楽文庫の約1割を閲覧できる図書館内の閲覧室。世界的価値のある音楽の専門書や楽譜等の一部が公開されています。閲覧希望者は、開館時間内に調査相談カウンターで受付をしてください。

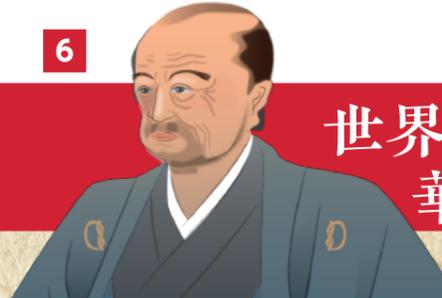


長保寺

長保2年(1000)に一条天皇の勅願で創建。本堂・多宝塔・大門がそろう国宝である寺は、長保寺と奈良の法隆寺のみ。江戸時代には本堂背後の山の斜面に約1万坪の広大な藩主廟所(国指定史跡)が造営されました。大名墓所として全国一の規模を誇ります。花の寺としても有名な長保寺は、日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」にも登録されています。

秘話 日本最古のパイプオルガン

名実共に理想的な音楽堂にするため、頼貞が南葵音楽堂に設置したイギリスのアボット・スミス社製のパイプオルガンは、昭和3年(1928)に東京音楽学校(現・東京藝術大学)に寄贈。旧東京音楽学校演奏堂に設置された楽器は、現在でも、その演奏を聴くことができます。



世界初! 麻酔手術の先駆者、 華岡青洲

詳細情報



人物 華岡青洲 (はなおか せいしゅう)
宝暦10年(1760)～天保6年(1835)

紀の川中流域の那賀郡那賀町(現在の紀の川市)に生まれました。代々医者の家系であったため、父のもとで医学を学びました。天明2年(1782)から3年間京都に遊学し、寝食を忘れて古医方、オランダ医学系統の外科学や儒学を学びました。この遊学時代に麻酔薬「麻沸散」を使って開腹手術をした古代中国、三国時代の医師、華佗の存在を知り、青洲は日本の華佗になることを決意しました。

京都からの帰郷後、診療のかたわら麻酔剤の研究に努め、文化元年(1804)に世界初の全身麻酔による乳癌摘出手術に成功しました。これはアメリカ人医師モートンによるエーテル麻酔の成功に先立つこと40年余の快挙です。

モデルコース

青洲の住居兼診療所、医学校でもあった春林軒を復元

春林軒

和歌山県紀の川市西野山473(道の駅 青洲の里内)
10:00～16:30(11～2月は～15:30)
定休:火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
入館料=200円

青洲ゆかりの遺品や資料から、氏が築いた医術の一旦を垣間見ることが出来る

展示室

和歌山県紀の川市西野山473(道の駅 青洲の里内)
9:00～17:00 定休:火曜(祝日の場合は翌日)
入館料:無料

麻酔薬開発の業績を記念して建造

華岡青洲顕彰記念公園

和歌山県紀の川市西野山473(道の駅 青洲の里内) 散策自由

車で5分

華岡青洲の妻・加恵の実家ともいわれている

旧名手宿本陣

和歌山県紀の川市名手市場641
10:00～16:00 定休:火曜(祝日の場合は翌日)

車で15分

四国八十八ヶ所のミニチュア版

百合山(新四国八十八ヶ所)

和歌山県紀の川市竹房
0736-77-2511(紀の川市観光振興課)

車で20分

旬野菜をはじめ地元産の食材をふんだんに盛り込んだメニューが味わえる

mulino

和歌山県紀の川市平野927(ファーマーズマーケット紀ノ川ふうの丘内)
11:00～17:00 定休:火曜、臨時休業あり

四季折々の新鮮な野菜や果物が並ぶ

ファーマーズマーケット

和歌山県紀の川市平野927
9:00～17:00 定休:火曜(祝日の場合は営業)



手術の様子(春林軒)

江戸時代、全世界に先駆けて全身麻酔を用いた乳癌摘出手術を成功させた世界に誇る偉人華岡青洲。さまざまな薬草の調合を繰り返した後、曼陀羅華(マンダラゲ/チョウセンアサガオ)の実などを主成分とする麻酔薬「通仙散」を完成させました。そして、文化元年(1804)、世界初の全身麻酔による乳癌摘出手術に成功。春林軒をはじめ所縁の地を訪ねると、「医聖」と称された青洲の偉大さに改めて敬服するでしょう。

春林軒

青洲の住居兼診療所、医学校でもあった春林軒。主屋と蔵は青洲が活躍した江戸時代の建物で、そのほかは調査資料を基に復元し、平成9年(1997)に整備再建されました。診察室、手術室、病室、講義室、薬調合所、看護婦宿舎などを配置した施設は、単なる診療所の域を超え、当時すでに医学校としての形態をも備えていたことが伝わります。



華岡青洲顕彰記念公園

華岡青洲の麻酔薬開発の業績を記念して作られた公園で、敷地はメスの形、石碑などの配置は人体を模しています。公園の隣には華岡家代々の墓所があり、東に歩いてすぐの所には、手術や解剖の際に使用したと伝えられる石があります。



旧名手宿本陣

旧大和街道沿いに残る、藩主の参勤交代や鷹狩りの際などに休憩所や宿泊所として利用された本陣。建物は、藩主頼宣から地士の処遇を受け寛永7年(1630)以降は名手組の大庄屋を代々務めたという名家、妹背家所有のものでした。妹背家は、青洲の人体実験に協力した良妻、加恵の実家ともいわれています。

秘話 適塾生もライバル視した分塾「合水堂」

青洲が故郷で「春林軒」を構えた後、弟の鹿城は文化13年(1816)に大坂の中之島で「春林軒」の分塾「合水堂」を開館。「合水堂」は本格的な西洋医学伝来まで日本の医学発展に貢献し、医学専門塾として類を見ない規模を誇りました。「適塾」で学んだ福沢諭吉の「福翁自伝」には、適塾生の合水堂への対抗心が記されています。



随筆家・白洲正子も愛した「高天原」 天野の里

詳細情報



人物 白洲正子 (しらす まさこ)
明治43年(1910)~平成10年(1998)

樺山伯爵家の次女として東京に生まれ、幼時より能に親しみ、14歳で女性として初めて能の舞台に立ちました。その後、アメリカのハートリッジ・スクールに留学。帰国後、GHQとの折衝や実業家として活躍した白洲次郎と結婚しました。

「草駄天お正」と命名されるほどの行動派で、それは後年になっても衰えを知りません。「西国巡礼」、「かくれ里」、「近江山河抄」、「十一面観音巡礼」といった名紀行を生む旅は、五十代半ばから、六十代にかけてのことでした。自分の眼で見、足を運んで執筆する姿勢は、終生変わりませんでした。

彼女は天野の里(かつらぎ町)をこよなく愛しました。

モデルコース

天野の里の中心的存在として鎮座する弘法大師に高野山を授けた社

丹生都比売神社 MAP P4 J-1
☎0736-26-0102 伊都郡かつらぎ町上天野230
境内自由(授与所8:45~16:30)

徒歩で5分

日本刀の鍛錬道場
ペーパーナイフと小刀造りの体験も

濱川日本刀鍛錬道場
☎0736-20-4929 伊都郡かつらぎ町上天野236
不定休 体験料=ペーパーナイフ4000円、小刀35000円
体験随時(希望日の2週間前までに要申込)

徒歩で5分

この地で修法した大峰修験者(山伏)が建てたものといわれている

石造五輪卒塔婆群
伊都郡かつらぎ町上天野(丹生都比売神社境内)

徒歩で3分

天野の里に庵を構えた西行法師の像を祀る

西行堂
伊都郡かつらぎ町上天野

徒歩で4分

平家に仕えた武士、斎藤時頼と恋に落ちた雑仕の横笛を祀る塚

横笛の恋塚 MAP P4 J-1
伊都郡かつらぎ町上天野

徒歩で3分

鳥羽天皇の皇后に仕えた中納言の局の墓

院の墓 MAP P4 J-1
伊都郡かつらぎ町上天野

徒歩で3分

平家打倒を企てて鬼界ヶ島へ流罪となった僧俊寛の弟子、有王丸の墓

有王丸の墓
伊都郡かつらぎ町上天野

徒歩で5分

本格手打ち蕎麦の店

あまの凡愚
☎0736-20-6800
伊都郡かつらぎ町上天野204
11:30~15:00(要予約) 定休:月~水曜

0736-26-0100(かつらぎ町観光協会) 散策自由



標高約450mの天野の里

『それはまことに「天野」の名にふさわしい、天の一角に開けた広大な野原であった。高天原も、こういう地形のところをいったのかも知れない』と白洲正子が著書『かくれ里』に記した天野の里。この地の一番奥まったところに、創建1700年を超える「丹生都比売神社」があります。弘法大師に高野山を授け、今も守護する女神が鎮まる地は、その名にふさわしい閑かな里として彼女に深い感銘を与えました。穏やかな風に吹かれながら、古に思いを馳せてみませんか。



丹生都比売神社
紀伊国一之宮であり、世界遺産登録もされている神社。主祭神の丹生都比売大神は天照大御神の妹神ともされています。全ての災厄を祓う女神、高野を守護する女神として崇敬を受けており、高野参りには先にこの神社に参拝してから山上を目指すのが習わしでした。大師を高野山へと導いた二頭の犬の伝説に因んで、二頭のご神犬が毎月16日に公開されています。

横笛の恋塚
平家に仕えた武士、斎藤時頼と恋に落ちた雑仕の横笛を祀る塚。出家して女人禁制の高野山に入った時頼の後を追った横笛は天野の地に庵を結びましたが、再会を果たせないまま病に倒れこの世を去ったといわれます。塚の脇にある碑には、横笛の歌「やおや君死すれば登る高野山恋も菩提の種とこそなれ」が刻まれています。



院の墓
西行堂からほど近い場所にある、鳥羽天皇の皇后・待賢門院に仕えた中納言の局の墓。西行との関わりが深かった中納言の局は待賢門院の喪に服した後、療養のために京都から天野に移り住み、その生涯を終えたといわれます。墓は、天野の里人が中納言の局の亡骸を葬り、生前を偲んで墓碑を立てたものと伝えられています。



秘話 丹生都比売神社の客殿だった古民家カフェ

米や高原野菜など天野の素材を盛り込んだメニューで人気の「Café客殿」。女性オーナー客殿ひかりさんの祖先は、代々丹生都比売神社の社家として宮司も務めた家系。築170年の建物は、宮大工だったひかりさんの曾祖父が手がけたものです。ランチ1500円、ケーキセット1000円など。

☎0736-26-0372
伊都郡かつらぎ町上天野140
平日 11:00~15:30(LO15:00)
土日祝 11:00~16:30(LO16:00)
ランチは~LO14:30
定休:火・水・木曜(祝日の場合は営業) 臨時休業あり



多くの江戸っ子の舌を唸らせた 紀州みかんのルーツをたどる

詳細情報



人物 伊藤孫右衛門 (いとう まごえもん)
天文12年(1543)~寛永5年(1628)

有田郡糸我村(現有田市)の農民。紀州みかんの創始者とされています。孫右衛門は、天正2年(1574)に肥後八代(熊本県)からみかんの苗木を有田郡糸我に移植しました。この頃、各地では特産品を門外不出として大切にしていたので、みかんの苗木を紀州に持ち出すのは、大変な苦労だったことが推測されます。その後、糸我で育った苗木を有田郡各地の在来のみかんに接木し、甘いみかんが実を結ぶようになったと伝わっており、これが紀州みかんの始まりとされています。

また、紀州徳川家初代藩主の頼宣公が、紀州の山がちな地形がみかん栽培に適していると推奨したことから、紀州のみかんは一気に有名になりました。

モデルコース

有田一円のみかんは、かつてここから江戸などへ

北湊みかん積み出し地跡
☎0737-22-3624(有田市産業振興課)
有田市港町 散策自由

車で4分

有田市のみかん産業の歴史を学ぶ

有田市みかん資料館 MAP P6 I-6
☎0737-82-3221
有田市箕島27(有田市文化福祉センター内)
9:30~17:00(最終入館16:30)
定休:水曜、年末年始 入館料=無料

徒歩ですぐ

有田市各所の名産品が集結

観光物産案内所 あり太くん
☎0737-83-4780 有田市箕島33-1
10:00~16:00 定休:土・日曜、祝日

車で5分

創業100年以上の天ぷらの名店

天乙商店
☎0737-83-2428 有田市宮崎町2413
8:00~18:00 定休:水曜

車で8分

美しい眺望と新鮮な魚介が自慢のイタリアン
TestiMone ARIDA
☎0737-83-2310 有田市宮崎町1052-13
11:00~15:00(LO14:00)、
17:30~22:00(LO20:00) 定休:火・水曜

車ですぐ

広大な海とみかん畑の景色が楽しめる

有田みかん海道 MAP P6 I-6
☎0737-22-3624(有田市産業振興課)
有田市矢橋~山地 散策自由

車で25分

文左衛門がみかんを運ぶため船出した地
紀伊國屋文左衛門の碑 MAP P6 J-5
☎073-483-8461(海南市産業振興課)
海南市下津町方2023 散策自由

チェックポイント



有田地方は、約450年の歴史をもつほど古くからみかん栽培が盛んな地。その起源は諸説あるものの、現在の有田市糸我町中番で伊藤孫右衛門が栽培したのが始まりというのが有力です。有田のみかんが広く好まれるきっかけとなったのが江戸への出荷で、寛永11年(1634)には、みかん400籠を出荷した記録が残っています。翌年には2千籠と急増。明暦2年(1656)には5万籠、享保年間(1716~1736)には50万籠も江戸に送り、数多くのグルメな江戸っ子の舌を唸らせました。こうして有田のみかんは全国的に知名度が上がり、みかんで財をなした紀伊國屋文左衛門などの豪商伝説も生まれるほどになりました。



有田市みかん資料館
400余年の歴史と伝統を誇る有田のみかん産業の成り立ちがわかる資料館。享保19年(1734)の「紀州蜜柑伝来記」など、みかんが伝わった経緯を記した貴重な古文書や古い農具など見ることができます。また、江戸時代のみかん出荷の様子などが分かる立体模型も展示されています。



有田みかん海道
全長約5.6kmのみかん集積のための農道を整備したドライブウェイ。紀伊水道や湯浅湾が眼下に広がり、道沿いに立つ巨大風車を間近に見ながら走ることができます。展望台もあり、白崎海岸から宮崎ノ鼻と呼ばれる岬までを見渡せるほか、天気良ければ淡路島や四国も見渡せます。



紀伊國屋文左衛門の碑
元禄時代(1688~1704)の豪商、紀伊國屋文左衛門が船出したと伝えられる下津港に建つ石碑。波風がひどくみかんを運べなかった江戸期、文左衛門は決死の覚悟で江戸へみかんを運び利益を得たと伝えられています。

秘話 山の斜面を利用したみかん畑がズラリ

日本一おいしいといわれる紀州みかんの味を作る条件はいくつかあり、「降水量が少ない」「水はけが良く太陽光が多く当たる急斜面が多い」「海からの潮風で気候が温暖」などの条件に見事一致するのが有田エリア。特に急斜面を利用した段々畑は壮観で、有田みかん海道や市内各所で見ることができます。



稲むらの火の舞台

～濱口梧陵が守った広川町から防災を学ぶ～

詳細情報



人物 濱口梧陵 (はまぐち ごりょう)
文政3年(1820)～明治18年(1885)

天保2年(1831)、濱口家の本家である千葉県銚子のヤマサ醤油店濱口儀兵衛の養子となり家業を継いだ梧陵は、様々な分野で優れた才能を発揮しました。教育面では、江戸時代末期に私塾を開塾し、剣道や学業などの指導にあたり、この私塾は後に「耐久社」と呼ばれ、現在の耐久中学校の敷地内に保存されています。

また、明治4年(1871)に大久保利通の命を受けて駅通頭(後の郵政大臣)に就任したのははじめ、明治12年には和歌山県議会議長に。議長辞任後は木国同友会を結成し、民主主義を広める活動を展開しました。明治18年、長年の願いであった欧米視察を行いました。途中のニューヨークにて永眠となりました。

モデルコース

濱口梧陵記念館と津波防災教育センターが併設

稲むらの火の館 MAP P6 M-5
☎0737-64-1760 有田郡広川町広671
10:00～17:00(最終入館16:00)
定休:月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始
入館料=500円
醤油を使ったソフトクリームを販売

広川町観光案内所
☎0737-64-0230 有田郡広川町広671
10:00～16:30 定休:月曜(祝日の場合は翌平日)

石碑前の広場では毎年津波祭が開催
感恩碑 MAP P6 M-5
☎0737-23-7795(広川町教育委員会)
有田郡広川町広 散策自由

火を持って人々を先導する梧陵の像
濱口梧陵銅像
☎0737-63-1122(広川町役場)
有田郡広川町広1500 散策自由

梧陵が私財を投じて築いた高さ約5m、幅約20m、延長約600mの大堤防
広村堤防
☎0737-23-7795(広川町教育委員会)
有田郡広川町広 散策自由

ボリューム満点の定食は、まさにおふくろの味
うちごはん 仁
☎090-9881-0244 有田郡広川町西広1168-4
11:00～14:00、17:00～22:00 定休:水曜

朝日夕陽百選にも選ばれる遠浅のビーチ
西広海岸
☎0737-23-7764(広川町産業建設課)
有田郡広川町西広 散策自由

津波の際、梧陵が住民を先導し避難した社
廣八幡神社 MAP P6 M-6
☎0737-63-5731 有田郡広川町上中野206
境内自由



広村堤防
濱口梧陵が築いた大堤防。震災後の安政2年(1855)から約4年かけ、工事費銀94貫344匁(現在で2億円超)の私財を投じた大工事は延べ5万人以上の村人の雇用も創出。

広川町は記録に残っているだけで、8回もの津波の被害にあっています。特に安政元年(1854)の安政地震津波の被害では、多くの生命と財産が失われました。田んぼの稲むらに火をつけて村民を高台まで誘導し、大勢の命を救ったのが濱口梧陵です。被災後には、私財を投げうって広村堤防を築き、失職した多くの人に仕事を与えました。彼の偉業はラフカディオ・ハーン(小泉八雲)が明治30年(1897)に著した『ア・リビング・ゴッド(生ける神)』として世界中に知られることになりました。



稲むらの火の館
濱口梧陵の実家を改装した「濱口梧陵記念館」と、地震や津波などに備えた防災を学ぶ「津波防災教育センター」からなる施設。



感恩碑
災害から広村を守り発展させてきた先人及び、濱口梧陵の偉業と徳を讃え、昭和8年(1933)に建立。広村堤防の中間地点にあり、石碑前の広場では毎年津波祭が開催されます。



廣八幡神社
安政の大地震の際、津波から村人を守るため濱口梧陵が稲むらに火をつけて住民を誘導した避難所として知られる神社。境内の奥には、勝海舟が題字と碑文を書いた梧陵の石碑があります。

秘話 老舗醤油メーカーの7代目でも知られる梧陵

醤油醸造の老舗、ヤマサ醤油は広村(広川町)出身の濱口家が創業。濱口家の分家、七右衛門の長男として生まれた梧陵は12歳で本家の養子となり、34歳で代々当主が名乗る7代目濱口儀兵衛となりました。当時の様子は、「稲むらの火の館」内に併設されている、「濱口梧陵記念館」に詳細な記録が残っています。



小説『有田川』の舞台。

有吉佐和子が描いた近代

詳細情報



人物 有吉佐和子 (ありよし さわこ)
昭和6年(1931)～昭和59年(1984)

和歌山市に生まれた有吉佐和子は、幼少の頃、父の転勤により東京・インドネシアに移り住みました。昭和20年(1945)、和歌山に疎開し、県立和歌山高等女学校に通いますが、このときの体験が、のちの小説家活動に大きな影響を与えることになりました。昭和31年、「地唄」が芥川賞候補となり文壇に登場し、翌年には、『白い扇』が直木賞候補に。昭和33年、新作浄瑠璃「ほむら」で芸術祭文部大臣賞を受賞しました。

佐和子が県内で過ごしたのは、幼少期と戦時中に疎開したわずかな期間だけですが、当時忌避されていた方言(紀州弁)が飛び交う作品を発表していることから、故郷に深く関心を寄せていたことが読み取れます。

モデルコース

小説『有田川』で千代が生涯の伴侶となる貫太と参詣を約束した場所

須佐神社 MAP P6 J-6
☎0737-83-0195 有田市千田1641
境内自由(社務所8:00～16:00)

車ですぐ
作中に何度も登場し物語の要所となる地
得生寺 MAP P6 K-6
☎0737-88-7110 有田市糸我町中番229
9:00～17:00

車ですぐ
ジュースなどみかんの加工品販売が人気のショップ
早和果樹園 本店
☎0737-22-3390 有田市宮原町新町275-1
10:00～17:00 不定休

車ですぐ
作中で千代の命を救った「人助け柏横」で知られる
浄念寺 MAP P6 K-6
☎0737-88-7420 有田市宮原町滝川原451
定休:閉門の場合あり

車で10分
1924年創業。
地元の太刀魚を使ったたちお井が評判
マルギ食堂
☎0737-82-2256 有田市箕島897-1
11:00～18:00 定休:水曜

徒歩ですぐ
作中では千代の夫となった貫太が命懸けで訴え、箕島駅が開業
箕島駅
有田市箕島893

車で10分
国産小麦粉とこだわり素材のパン
Fields R
☎0737-20-1794 有田市初島町里340
10:00～17:00(土曜のみ営業)



毎年5月14日に行われる得生寺の中將姫会式は、菩薩の面や袈裟を身に着けて、古式な姿で練り歩く様子が圧巻。

1970年代の代表作『恍惚の人』や『複合汚染』などで社会派と呼ばれる小説家、有吉佐和子。『有田川』は、佐和子が32歳の頃の作品『紀ノ川』や『日高川』と並ぶ『川もの』と呼ばれるシリーズのひとつで、激動の近代に生きる女性の姿をたゆまず流れる川のように重ね合わせて描くことで多くの女性から支持を集めました。作品中に登場する浄念寺やみかん栽培農家などの描写は、緻密な取材に基づいています。そんな物語に登場する要所を訪ね、主人公を自身に重ね合わせた旅はいかがでしょう。



須佐神社
和銅6年(713)創建。小説『有田川』で千代が生涯の伴侶となる貫太と参詣を約束した場所。嫁を取るなら糸我の会式、婿が欲しけりや千田祭、と謳われている、あの千田祭りである」と書かれる。毎年10月14日の例大祭で有名。祭典終了後、浜で神前に供えた鯛を櫓の上から投げ落とし、参加者が奪い合う様子は圧巻です。



浄念寺
藤原豊成の娘、中將姫(ちゅうじょうひめ)を殺害しよう命じられた伊藤春時が姫の徳に心打たれ殺害できず、名を得生と改めたのが寺の由来といわれます。作中に何度も登場し、千代の運命を大きく左右するなど、物語の要所となる場所。中將姫の命日にちなみ、毎年5月14日に来迎会式が行われます。



浄念寺
「浄念寺さんの人助け柏横ちゅうんよ。あれが浄念寺さんの本堂よ。あこの頭だけ出してるのが太子堂やしよ」と紹介され、作中で千代の命を救った「人助け柏横(びやくしん)」で知られます。実際に今も残っており、昭和28年(1953)の大水害ではこの柏横につかまって助かった人もいたそうです。

秘話 資料を基に書いた豪快な鯛投げ神事

小説内で千代と義妹が見に行った須佐神社の千田祭。界限でいちばんにぎわう例大祭で、クライマックスは子どもが櫓から鯛を投げ、大人たちが奪い合います。有吉佐和子自身は祭を見たことがなく、旧友の女性からの資料を基にして書き上げたとのこと。



鯉節発祥の地・印南。 漁民3人衆の功績を訪ねる

詳細情報



人物 角屋甚太郎 (かどや じんたろう)
?~宝永4年(1707)

古代の宮廷でも好んで食べられていたカツオ。その漁期は夏であり、大量に獲れたカツオを何とか保存したいと、鯉節を考案したのが角屋甚太郎です。印南漁港を基地とする漁船団の船主であった甚太郎は、クヌギやナラの薪でカツオを燻し、保存する方法を考案しました。さらに、その手法を出漁先の土佐へと伝えました。また、同じく印南漁民であった森弥兵衛と印南与市によって、枕崎・南房総・西伊豆、さらに全国へと伝授され、鯉節は和食に欠かすことができない食材となりました。現在、印南町では鯉節製造は行われていませんが、和食の基礎は、この地から発生したといえるでしょう。

モデルコース

鯉節の考案者・角屋甚太郎の位牌を祀る

チェックポイント **印定寺** MAP P3 D-9
☎0738-42-0147 日高郡印南町印南2259 境内自由

徒歩ですぐ

航海の安全を守る海の神

住吉社

日高郡印南町印南2258-1 境内自由

車で5分

鯉節の製造に功績を遺した3人の印南漁民を讃える

チェックポイント **印南漁民顕彰碑** MAP P3 C-9
☎0738-42-1737 (印南町企画産業課) 日高郡印南町印南 散策自由

車で10分

漁港からその朝仕入れた魚で作るお造り定食が美味

花風

☎0738-43-8111 日高郡印南町島田2156-7 11:00~19:30 定休:木曜

車で8分

印南漁港が一望できる

要害城史跡

☎0738-42-1737 (印南町企画産業課) 日高郡印南町印南1867 散策自由

徒歩ですぐ

地元の港から仕入れた魚で作る昔ながらの蒲鉾店

西山蒲鉾店

☎0738-42-0033 日高郡印南町印南1717 9:00~18:00 定休:水曜

徒歩ですぐ

角屋甚太郎の13代目にあたる店主が造る創業100年の老舗の味

チェックポイント **ダルマ醤油店** MAP P3 D-9
☎0738-42-0031 日高郡印南町印南2274-5 8:00~19:00 不定休



今に伝わる鯉節が出回るようになったのは江戸時代の中期頃。製法を考案したのは、印南の漁民であった角屋甚太郎といわれています。魚が傷みややすい初夏から秋にかけてはカツオが大量に釣れるので、保存するために煮て乾かしていたそうです。甚太郎はそこに、煙で燻すという工程を付け加え、延宝2年(1674)に「燻乾法」を開発。その後、息子の2代目甚太郎が試行錯誤を続け、青カビをつけて日光乾燥を繰り返す「燻乾カビ付け法」による固乾改良土佐鯉を編み出しました。



印定寺

鯉節の考案者・角屋甚太郎の位牌を祀る寺院。甚太郎の子孫にあたる甚三郎には与市という一人息子がいましたが、奉公人のヲサナと恋仲になり、身分違いの恋に悩んだ末に心中してしまいます。世をはかなんだ甚三郎は財産を印定寺に寄進、船団を率いて土佐に移住。同地でもカツオの漁法と鯉節の製法発展に尽力したといわれています。

印南漁民顕彰碑

江戸時代、鯉節の製造に功績を遺した3人の印南漁民を讃える記念碑。鯉節の始祖である角屋甚太郎、鹿兒島・枕崎に製法を伝えた森弥兵衛、房総・伊豆に伝えた印南与市の名前が刻まれています。碑の前にある、土佐清水市や銚子市等々、印南漁民三人衆活躍地の海岸の石にも注目を。平成27年(2015)7月建立。



ダルマ醤油店

鯉節の始祖・角屋甚太郎の13代目にあたる店主が造る。創業100年の老舗。定番のこいくち醤油はほんのり甘口で、刺し身にもぴったり。1.8ℓ 900円、900ml 650円、200ml 450円。角屋甚太郎が土佐に伝えた鯉節とダルマ醤油がセットになった、簡単にだし醤油が作れる「甚太郎ロマン」も人気。

秘話 江戸時代の武士が鯉節を好んだワケ

鯉節は「勝男武士」の字を当てて縁起物ともされています。そのため、江戸時代には武士たちに大変好まれていました。現在でも結婚の結納品のひとつとして鯉節を用いるのは周知の通りです。



歌舞伎の女形日本一! 芸に生きた芳澤あやめ

詳細情報



人物 芳澤あやめ (よしざわ あやめ)
延宝元年(1673)~享保14年(1729)

元禄から享保にかけて一世を風靡した女形の歌舞伎役者、初代芳澤あやめ。能の達人であった橋屋五郎左衛門の寵愛を受け、綾之助という名前をもらい、女形として修行を開始しました。あやめの女形に脚光が集まると、元禄5年(1692)に京に上り、元禄8年には太夫の号を取得、芳澤菊之丞と改名。元禄11年には、『傾城浅間獄』の傾城三浦役で大人気。以来、江戸や京都で数々の舞台を踏み大成功を収め、歌舞伎俳優全体の最高位の位を与えられました。

若くして故郷を離れたあやめ、その想いは断ちがたく山里に群生する美しいあやめを思い浮かべて芸名としました。

モデルコース

チェックポイント 地元産の農作物や肉、魚、備長炭などを販売
道の駅SanPin中津 MAP P4 I-3
☎0738-54-0541 日高郡日高川町船津820 8:00~17:00 定休:12/31~1/2午前 (1/2は13:00~16:00の営業)

車で5分

広場には優雅に舞うあやめの銅像

チェックポイント **きのくに中津荘** MAP P4 J-3
☎0738-54-0082 日高郡日高川町高津尾1049 定休:12/31午後、元旦 1泊2日=素泊まり4428円~ほか(見学は自由)

徒歩ですぐ

芳澤あやめにちなみ、橋のたもとにはレリーフを設置

新あやめ橋

☎0738-22-2041 (日高川町企画政策課) 日高郡日高川町高津尾1570-1 散策自由

車で5分

4月下旬から5月にかけてアヤメの花で一面紫色に包まれる

あやめ公園

☎0738-22-2041 (日高川町企画政策課) 日高郡日高川町高津尾1011 散策自由

徒歩ですぐ

現在は生家付近の石垣のみが残されている

チェックポイント **芳澤あやめ生家跡** MAP P4 J-3
☎0738-22-2041 (日高川町企画政策課) 日高郡日高川町高津尾 ※あやめ公園向かい 散策自由

車ですぐ

入口には女形の装束に身を包んだあやめの巨大レリーフ

かまきりトンネル

☎0738-22-2041 (日高川町企画政策課) 日高郡日高川町高津尾846-2 散策自由

車で5分

露天風呂は眼下に清流日高川が流れ開放的な気分に入浴できる

中津温泉あやめの湯 鳴滝

☎0738-54-0488 日高郡日高川町高津尾852-1 13:00~19:00、土・日曜、祝日11:30~20:00 定休:水曜(祝日の場合は翌日)、12/31~1/2午前(14:00から営業) 入浴料=650円

5歳の時に父を亡くしたあやめは、芝居好きが高じて旅回りの一座に入ります。若衆方(美少年役)として舞台を踏むようになった頃、幕府が風紀の取り締まりで女歌舞伎を禁止します。これによって女形のあやめは江戸や京都で数々の舞台を踏み大成功を収め、歌舞伎俳優全体の最高位である「三ヶ津惣次郎」の位を与えられました。日高川町の中津地区は、芳澤あやめの出生地。希代の女形を生んだ日高の深山幽谷を散策してみましょう。



出生の地看板(道の駅SanPin中津)



道の駅SanPin中津

地元産の農作物や肉、魚、備長炭などを販売。イノシシやシカなどの新鮮な食肉や日高川の魚を使った加工品はここでしか手に入りません。元祖ほろほろ丼1320円やほろほろ焼き鳥1本220円なども併設の食事処で食べられます。

きのくに中津荘

日高川のほとりにある温泉宿泊施設。施設前の広場には、優雅に舞う芳澤あやめの銅像が。気軽なランチ利用のほか、宿泊時には、地元産の物産をふんだんに用いた中津荘会席料理なども楽しめます。



芳澤あやめ生家跡

山里の中津でも、旅回りの歌舞伎芝居は興行されていました。幼い頃よりあやめの太鼓や拍子木の腕は役者顔負けで、これが親方の目に止まり役者としての道を歩むことに。現在は生家付近の石垣のみが残されています。※足元が悪いため、現在、進入不可。



秘話 女性になりきるためのあやめの努力

女形での立ち居振る舞いをより真に迫ったものにするため、あやめは、食事をするときには皆から離れて食べるなど、当時の女性と同じ生活を送ったといわれています。



参詣者が1日数万人？ 偉大な念仏行者 徳本上人

詳細情報



人物 徳本上人 (とくほんしょうにん)
宝暦8年(1758)~文政元年(1818)

日高町志賀に生まれた徳本上人。4歳の時、友人の死をきっかけに念仏修行を始め、27歳で御坊市の往生寺にて得度を受け僧になりました。徳本上人は、庶民の苦難を救う一方、厳しい修行を行ったことでも有名で、特に、現在の日高川町で行った6年間の修行では、全身から鮮血がほとばしり、使っていた木魚を叩き抜いてしまったといわれるほど過酷なものだったと伝わっています。易行を旨とする浄土宗にあってこのような難行は非常に珍しいことで、このことは、形式に流されかけた浄土宗に革新をもたらしました。

また、過酷な修行を行いながら各地を行脚、近畿地方をはじめ全国に念仏を広めていきました。

モデルコース

徳本上人が30日間の念仏修行を行った地

チェックポイント **徳本上人初行洞窟** MAP P4 I-4
☎0738-22-2041 (日高川町企画政策課)
日高郡日高川町山野 散策自由

車で30分

徳本上人像とその生涯を物語る絵巻が残る

チェックポイント **往生寺** MAP P3 C-8
☎0738-22-4411 御坊市湯川町財部412
9:00~17:00(絵解き是要予約)

車で20分

250軒を超える農家が作物を持ち込む直売所

さわやか日高
☎0738-63-1333 日高郡日高町荊木5
9:00~18:00 定休:年始

車で10分

生産高日本一の黒竹を使った花器などを販売

原谷黒竹工房 ぴかいち
☎090-5906-3466 日高郡日高町原谷407
9:00~12:00(火曜のみ営業)
※事前予約で定休日・時間外でも対応可

車で5分

住職の絵解き説法で徳本上人を知る

誕生院
☎0738-64-2174 日高郡日高町志賀2556
絵解きのみ=1人500円 境内自由

徳本上人の生誕地を示す碑

チェックポイント **徳本上人生誕地遺跡** MAP P3 A-7
☎0738-64-2174
日高郡日高町志賀2556(誕生院内) 境内自由

車で10分

甘く脂の乗ったクエ料理は絶品

割烹 岬
☎0738-64-2975 日高郡日高町比井673
11:00~21:00 定休:火曜(祝日の場合は翌日)

車で10分

目の前に広がる紀伊水道を眺めてのんびり

温泉館みちしおの湯
☎0738-64-2626 日高郡日高町方杭100
11:00~21:00 定休:火曜(祝日の場合は翌日)
入浴料=大人600円、小人300円



徳本上人が各地に出向いた様子が描かれた絵解きの掛け軸(誕生院)

江戸時代中期、「南無阿弥陀仏」の念仏を唱えて日本全国を行脚し庶民を救済した念仏行者、徳本上人。27歳で御坊市の往生寺で得度を受けて僧となると想像を絶する荒修行を重ね、やがて念仏を唱えながら全国各地へ衆生救済のための行脚を開始。木食や真冬の水行、1日1合の豆や麦粉を口にすることで、1日何万遍も念仏を唱えるという厳しい修行を行いました。その姿は人びとの心を捉え、庶民はもちろん、皇族・公家・将軍家・諸大名まで多くの人々の崇敬を集めました。今も人の心に生き続ける徳本上人の足跡をたどってみましょう。



徳本上人初行洞窟

徳本上人が出家後、初めて30日間におよぶ念仏修行を行った際にこの地をしばしば訪れ、念仏を唱えたとはいわれています。山容の良さから別名・日高富士と呼ばれる、標高約523mある真妻山の山腹に位置しており、目の前には展望台があります。



往生寺

徳本上人が27歳の時に得度をした寺院。本院には徳本に五戒を授けた大円大徳の墓とともに、徳本上人像とその生涯を物語る絵巻が残されています。本尊の阿弥陀如来は坐像で、印も通常のものとは違っています。見事な欄間の彫物や徳本上人在世当時から残るイチウヤクスノキなど、名利の名にふさわしい品々も見どころとしておすすめです。



徳本上人生誕地遺跡

誕生院の石段下にある、徳本上人の生誕地を示す石碑。父母には男児がなく、神仏に願うと、母親は蓮華の花を飲む夢を見てしばらく後に懐妊、男児が生まれたそうです。その時も部屋中に蓮華の香りが満ちたと伝わっています。

秘話 全国各地を巡った徳本上人

寛政6年(1794)頃から始められたといわれる徳本上人の全国行脚は、近畿・東海・関東・中部・北陸など、驚くほど広い範囲におよび、上人の足跡を物語る石碑(名号碑)は、和歌山県下に210基以上、全国各地に1500基以上確認されています。



海の勇者 ヨハネス・クヌッセン機関長 ~デンマークと日本の友好の原点~

詳細情報



人物 ヨハネス・クヌッセン
1917年~1957年

デンマークのフレゼリクスハウン出身。昭和32年(1957)、名古屋から神戸へ向けて航行していたデンマーク船のエレン・マースク号は、和歌山県日高の沖合で火災を起こしている船を発見しました。ただちに接近して高砂丸の乗組員3人の中、唯一の生存者を救助しましたが本船に乗り移る際に力尽きて転落。これを機関長として初航海に従事していたクヌッセン氏は、身の危険をかえりみず暗夜の激流の中に飛び込みましたが、決死の救助にも関わらず船員とともに犠牲になりました。

クヌッセン氏には、後に日本政府から勲五等双光旭日章が授与され、これを機に日本とデンマークの両国に深い絆が生まれました。

モデルコース

約15haの広さを持つ県最大の湿原

阿尾湿地
☎073-441-2779 (和歌山県 環境生活部)
日高郡日高町阿尾1050 散策自由

車ですぐ

救命活動に使われた救命艇を保存している

チェックポイント **クヌッセン機関長救命艇保管庫** MAP P3 A-6
☎0738-63-3806 (日高町産業建設課)
日高郡日高町阿尾1438-3 外からの見学自由

車で10分

紀伊水道を望む日ノ御崎の突端に立つ大型の灯台

チェックポイント **紀伊日ノ御崎灯台** MAP P3 A-7
☎0739-24-9884 (田辺航路標識事務所)
日高郡日高町阿尾1990-35 散策自由

徒歩で5分

クヌッセンの勇気と愛にあふれた行動を讃えて建てられた

チェックポイント **クヌッセン機関長顕彰碑・胸像** MAP P3 A-6
☎0738-22-4951 (美浜町産業建設課)
日高郡美浜町三尾2113 散策自由

車で5分

洋風の家が立ち並ぶ地区

アメリカ村
☎0738-22-4951 (美浜町産業建設課)
日高郡美浜町三尾 散策自由

車で10分

鶏ガラの香り立つ滋味深いスープのラーメンが人気

お食事処 美佐
☎0738-22-2783 日高郡美浜町和田1138-124
11:30~14:00、16:00~21:00 定休:火曜

車で5分

大正6年(1917)創業、新鮮なしらすを加工販売

しらす屋 たにくに
☎0738-22-0422 日高郡美浜町瀨ノ瀬298
9:00~17:00 定休:不定休



エレン・マースク号の救命艇(クヌッセン機関長救命艇保管庫内)

昭和32年(1957)、2月10日夜。航行するデンマーク船、エレン・マースク号は日高町の紀伊日ノ御崎灯台沖で、徳島県の高砂丸が火災を起こしているのを発見しました。風速20mを超える強風が吹き荒れる中、ヨハネス・クヌッセン機関長は身の危険をかえりみず、暗夜の激流の中に飛び込みました。しかし高砂丸の船員3人は犠牲となり、翌朝、クヌッセンの遺体が日高町田杭海岸へと漂着。勇敢な彼の魂を弔いたいと供養碑を建てました。海の英雄の偉業とその命が結んだ奇縁に想いを馳せてみましょう。

クヌッセン機関長救命艇保管庫

高砂丸船員の救命活動に使われた救命艇を保存する施設。庫内には木製救命艇がそのままの形で残されているほか、当時の漁具なども展示。敷地内にはクヌッセン氏と犠牲者の供養碑も建てられています。



紀伊日ノ御崎灯台

紀伊水道を望む日ノ御崎の突端に立つ大型の灯台。かつてこの灯台は隣の美浜町に建てていましたが、地割れの危険があるため地盤が安定している日高町側に建て替えられました。真っ青な海と空の中に凜と立つ様はまさに壮観です。

クヌッセン機関長顕彰碑・胸像

灯台近くの日の岬パークに立つクヌッセン機関長の顕彰碑と胸像。クヌッセンの勇気と愛にあふれた行動を讃えて建てられ、「クヌッセンの丘」として今も未永くその冥福と航海の安全が祈られています。



秘話 「カナダ」に移住した人が多いのに、「アメリカ」村

ここから移住した人は、アメリカ大陸へ渡ったのは確かですが、実際の移住地はカナダでした。にも関わらず「アメリカ村」と名がついたのは、一部の資産家によってハイカラな擬洋風の住宅が数多く建てられたり、アメリカなどに親類縁者等が多い地域だったため、そこから通称アメリカ村と呼ばれるようになったとか。



頼宣の懐刀！徳川家に忠誠を誓った付家老・安藤直次



人物 安藤直次(あんどう なおつぐ)
弘治元年(1555)～寛永12年(1635)

姉川の戦いや長篠の戦いで功績を挙げた徳川家康の忠臣。小牧・長久手の戦いでは池田恒興や森長可を討ち取り、関ヶ原の戦いでは使番として従軍し、家康を支え続けました。慶長19年(1614)からの大坂の陣では、付家老として年少の頼宣に代わり軍を率いて参戦しました。大坂夏の陣で嫡子の重能が戦死するも、その死を悼むより軍の立て直しを優先する臣下としての忠義を尽くしました。

頼宣から厚く信任を受けており、元和5年(1619)の頼宣の紀州入国に際し、3万8800石の所領を与えられ田辺城主となりました。

モデルコース

安藤直次の従弟の安藤直隆の菩提寺

西方寺 MAP P4 L-8
☎0739-24-3094 田辺市古尾25-3 境内自由

車で5分

現在は水門や「安」の字の記された瓦や鯉など城の一部のみが残る

田辺城跡 MAP P4 L-8
☎0739-26-9929 (田辺市観光振興課)
田辺市上屋敷三丁目 散策自由

車で5分

安藤家第16代藩主直裕が田辺の町を防衛するため築かせた台場跡

扇ヶ浜台場跡
田辺市上屋敷二丁目15-24 散策自由

車ですぐ

江戸時代の子どもの「おけし餅」をモチーフにした「おけし餅」が人気

辻の餅
☎0739-22-1665 田辺市北新町1
8:30～17:00 定休:火曜(不定休あり)

徒歩で5分

県内で水揚げされた鮮魚が堪能できる

宝来寿司
☎0739-22-0834 田辺市湊18-12
10:00～21:00 定休:月曜

車で5分

田辺藩初代藩主安藤直次の功績を讃え有志により闘雞神社境内に建立

藤巖神社 MAP P4 M-8
☎0739-22-0155 (闘雞神社)
田辺市東陽1-1 境内自由(社務所8:30～17:30)

車で7分

安藤直次の命で石清水八幡宮から勧請して創建

八幡神社
田辺市高雄三丁目1 境内自由

車で25分

和歌山の梅栽培の始まりは安藤直次一目30万本と称される白い花が咲き乱れる

紀州石神田辺梅林
☎0739-26-9929 (田辺市観光振興課)
田辺市上芳養5057-2 9:00～17:00
2月上旬～3月上旬のみ開園



田辺城跡
安藤直次によって築城された田辺城は、明治4年(1871)まで安藤氏の居城でした。

幼少期から徳川家康に仕えた安藤直次は、慶長8年(1603)に家康が征夷大將軍となると、本多正純や成瀬正成と共に幕政を取り仕切るようになります。慶長15年(1610)には、家康の10男、頼宣の付家老になり忠義を尽くしました。元和5年(1619)、頼宣が和歌山城に移ると、付家老として同行し、それまでの掛川城(2万石)から同国田辺城に移され3万8800石の所領を与えられました。田辺に残る史跡をたどり、頼宣が全幅の信頼を寄せた付家老安藤家の城下町を散策してみましょう。



西方寺
田辺藩城代家老、安藤家の菩提寺で、初代直隆より歴代の29基の墓碑があります。安藤直隆は紀州徳川家の付家老、安藤直次の従弟。本尊は阿彌陀如来。境内の延命地藏菩薩も地域の人々から親しまれています。



藤巖神社
安藤直次は、幼少から徳川家康に近侍し、姉川の合戦、長篠合戦、長久手合戦などに従軍し、後に家康の側近として幕政に参画しました。慶長15年(1610)家康の第10子頼宣の傳役となり、大坂の陣には頼宣に従って出陣し、元和5年(1619)頼宣が紀伊に移ると、紀州徳川家付家老として田辺藩主となり3万8800石を支配しました。藤巖神社は、現在の田辺の原形を作った田辺藩初代藩主「安藤直次(藤巖公)」の功績に感謝し、明治19年(1886)有志により、闘雞神社境内に建立されました。

田辺城跡
会津川の河口付近にあった田辺城は、別名「錦水城(きんすいじょう)」とも呼ばれます。徳川頼宣の転封に従い付家老の安藤直次が田辺に領地を得て入城しました。明治4年(1871)に廃城となり現在は水門や石垣など城の一部が残り、付近では井戸跡など当時を偲ばせる史跡に出会えます。

秘話 田辺に来たのに城がない？

直次が初めて田辺に来た時、入城すべき湊城はすでに廃城となっていたため、民家に宿泊したといわれています。この城を再興したのが「田辺城」で、石垣の上に連なる白壁の土壁が海に映えて美しく、錦水城と呼ばれていました。



本物の禅僧・山本玄峰の足跡を訪ねて



人物 山本玄峰(やまもと げんぼう)
慶応2年(1866)～昭和36年(1961)

田辺市本宮町生まれ。13歳から家業である農林業を手伝い始め、16歳で役師となり熊野本宮と新宮の間を往復して働きました。やがて家業を継ぎますが、19歳の時、失明を宣告されてしまいます。失意の中、弟に家督を譲り、妻と離婚して僅かな旅費を持って新潟・北陸と流浪の旅へ出ました。7回目の四国遍路の時、「雪渓寺」の門前で行き倒れとなったところを山本太玄和尚に助けられ、弟子となり厳しい修行の道に入りました。25歳で出家し、玄峰の号を受け、明治34年(1901)、太玄和尚の養子となり、「雪渓寺」の住職になりました。

モデルコース

門前の石碑に彫られている絶筆の書(玄峰九十六歳自署)

玄峰塔 MAP P6 H-8
☎0735-42-0735 (熊野本宮観光協会)
田辺市本宮町湯峯113 散策自由

徒歩ですぐ

玄峰老師が定宿としていた老舗旅館館内には直筆の書も

旅館あづまや
☎0735-42-0012 田辺市本宮町湯峯122
日帰り入浴13:00～15:00
定休:月2回不定休 入浴料=730円

車で10分

木々に守られるように佇む玄峰老師の墓

山本玄峰老師の墓 MAP P6 I-9
☎0735-42-0735 (熊野本宮観光協会)
田辺市本宮町渡瀬 散策自由

車で10分

熊野詣の人々が憧れた熊野三山のひとつ

熊野本宮大社
☎0735-42-0009 田辺市本宮町本宮1110
6:00～19:00(社務所8:00～17:00)

徒歩ですぐ

熊野三山だけで販売の「もうで餅」が人気

茶房 珍重菴 本宮店
☎0735-42-1648 田辺市本宮町本宮195-3
(熊野本宮大社瑞鳳殿内)
9:00～16:00 定休:水曜

徒歩ですぐ

玄峰老師の胸像や解説板を展示

世界遺産 熊野本宮館 MAP P6 J-7
☎0735-42-0751 田辺市本宮町本宮100-1
9:00～17:00 無休 入館=無料

車で10分

西日本最大級の露天風呂が自慢

渡瀬温泉
☎0735-42-1185
田辺市本宮町渡瀬(わたらせ温泉大露天風呂)
6:00～22:00 無休 入浴料=900円、小人450円



旅館あづまやにある山本玄峰の書

太平洋戦争の終戦に際して玉音放送で流れた「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」の文言を進言、新憲法における天皇の地位について「象徴」と示唆した禅僧、山本玄峰。彼は、湯の峰温泉にあった芳野屋(現旅館あづまや)の前で捨て子として拾われ、岡本夫妻に育てられたといわれます。秘湯の風情が漂う湯の峰温泉には、出生の地「旅館あづまや」や絶筆を刻んだ「玄峰塔」などのゆかりの場所が点在し、玄峰の歩んだ足跡をたどることができます。

玄峰塔

湯の峰温泉の中心に建つ天台宗の寺院・東光寺。門前の石碑には、長く病床に臥していた96歳の老師が入寂の2週間前に揮毫した絶筆の書(玄峰九十六歳自署)が彫られています。その力強い筆使いに、老師の人柄や生きざまが感じられます。

山本玄峰老師の墓

幼少期を過ごした渡瀬地区に老師が眠る墓があります。場所は国道311号と渡瀬トンネルが交わる、川湯温泉入口交差点近くの山中。木々に守られるようにして佇む老師の墓前で、静かに手を合わせましょう。



世界遺産 熊野本宮館

熊野本宮大社近くにある施設で、熊野信仰や熊野古道など、この地方の歴史や伝説にまつわる情報を紹介。玄峰老師の胸像や「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」の文言に関する解説板なども展示されています。施設内には観光協会もあるので、エリアの情報を手に入れたりと観光拠点としても活用できます。



秘話 終戦をもたらした傑僧の金言

太平洋戦争末期。厳しい戦況を強いられるなか、陛下から総理就任の話を受けた鈴木貫太郎は、悩んだ末に玄峰のもとを訪れた。玄峰はその時に終戦を勧め、後日、総理大臣となった鈴木へ一通の手紙をしたためる。そこに記された「耐え難きを耐え、忍び難きを忍び」の言葉が、玉音放送で発せられたという。



「知の巨人」南方熊楠とその研究を支えた熊野の人々

詳細情報



人物 南方熊楠 (みなかた くまぐす)
慶応3年(1867)~昭和16年(1941)

和歌山県が生んだ博物学の巨星・南方熊楠は和歌山市橋丁に生まれました。幼少より抜群の記憶力に恵まれ、知的好奇心に満ち溢れていました。和歌山中学校(現・桐蔭高校)を卒業後、上京。明治17年(1884)に東京大学予備門に入学しますが、2年で退学し、帰郷しました。その後、19歳から約14年間、アメリカ、イギリスなど海外遊学。さまざまな言語の文献を使いこなし、国内外で多くの論文を発表しました。研究の対象は、変形菌(粘菌)のほか菌類・藻類等の植物学、人文科学等多方面にわたり、民俗学の分野では柳田国男と並ぶ重要な役割を果たしました。生涯、在野の学者に徹し、地域の自然保護にも力を注いだエコロジストの先駆けとしても注目されています。

モデルコース

熊楠の残した膨大な草稿、身の回りの品、菌類の標本などを展示

チェックポイント **南方熊楠記念館** MAP P3 E-7
☎0739-42-2872 西牟婁郡白浜町3601-1
9:00~17:00(最終入館16:30)
定休:木曜、6/28~30、年末年始
(7/20~8/31は無休) 入館料=600円
車で5分

熊楠が菌類、藻類の採集の際に頻りに訪れた社

熊野三所神社
☎0739-43-0558 西牟婁郡白浜町744
境内自由
車で30分

熊楠が神社を包み込む藤を「オカフジ」と命名

チェックポイント **田中神社** MAP P3 E-7
☎0739-34-2370 (上富田町総務政策課)
西牟婁郡上富田町岡403 境内自由
車で20分

熊楠は当社の宮司の四女・松枝と結婚

閻魔神社
☎0739-22-0155 田辺市東陽1-1
境内自由(社務所8:30~17:30)
車で5分

熊楠の旧邸と顕彰施設が併設

チェックポイント **南方熊楠旧邸・南方熊楠顕彰館** MAP P4 M-8
☎0739-26-9909 田辺市中屋敷町36
10:00~17:00(最終入館16:30)
定休:月曜、第2・4火曜、祝日の翌日
入館料=無料(熊楠旧邸は観覧料350円)
車ですぐ

熊楠の大好物にちなんだ「くまぐすあんぱん」を販売

ララ・ロカレ
☎0739-34-2146 田辺市上屋敷2-6-7
9:00~17:30 定休:火曜
車で10分

南方熊楠の墓がある

高山寺
☎0739-22-0274 田辺市稲成町392 境内自由



神島
熊楠の活動によって国の天然記念物に指定された神島。対岸の鳥の巣半島からの眺めが美しい。

自然科学の分野のみならず、民俗学や民族学、宗教学など多くの分野で大きな功績を遺した「知の巨人」といえば、和歌山県出身の南方熊楠です。若い頃から海外へと飛び出し、アメリカやイギリスで知見を広めた彼は、明治37年(1904)に田辺に移住。後半生の37年間を、植物の宝庫といわれたこの地で過ごします。熊楠が駆け回ったフィールドをめぐり、彼自身や彼を支えた人々について知識を深めてみれば、偉大な「知の巨人」が実は我々と同じ等身大の人間であったことに、きっと思い至るはずです。



南方熊楠記念館

生涯にわたり膨大な書き物を残した熊楠。その写本や草稿、身の回りの品から、収集していた菌類の標本などが展示されています。館内には生きた変形菌(粘菌)も展示され、顕微鏡を覗いて実際に見ることもできます。また、屋上からは熊楠が昭和天皇をお出迎えた神島を遠望できます。



熊楠が昭和天皇に献上したキャラメル箱



南方熊楠旧邸・南方熊楠顕彰館

熊楠が晩年に25年間過ごした旧邸は、国の登録有形文化財として保存されています。この庭で新属新種の変形菌(粘菌)を発見するなど、熊楠にとっては居住・研究のための大切な空間でした。平成18年(2006)には隣接地に南方熊楠顕彰館が開館。熊楠に関わる25000点以上の資料を保存する熊楠研究と情報発信の拠点です。



田中神社

熊野古道・中辺路沿いにあり、神社を包み込む鎮守の森が目印。全体を覆う藤を熊楠は「オカフジ」と命名しました。神社合祀の機運の中で、大正4年(1915)に八上神社に合祀されるも、熊楠の「合祀されても神林だけは残して」との助言通り氏子たちがこれを保全。森は昭和31年(1956)に県の天然記念物第1号として指定されました。

秘話 熊野三所神社の「御座船」

生物学者でもあった昭和天皇は、変形菌(粘菌)などの観察のため田辺湾に訪訪。熊楠は御召艦長門(ながと)の船上で約25分間、変形菌をはじめ動植物について進講し、変形菌の標本110種などを献上しました。陛下が神島や、四双島、塔島などをめぐられたという木製の船は、「御座船」として白浜温泉の熊野三所神社に納められています。



世界140の国と地域で愛好される武道！合気道の開祖・植芝盛平

詳細情報



人物 植芝盛平 (うししば もりへい)
明治16年(1883)~昭和44年(1969)

田辺市に生まれ、和歌山県第二中学校(後の田辺中学校)に入学。中退して珠算学校に通うと、そろばんの特技が認められ、田辺税務署に就職しました。

明治34年(1901)に単身で上京し、文具店を営みながら古流柔術などの修業に励みました。その後、精神的修養を経て独自の武術を創始。昭和17年(1942)にはその名称を改め、正式に「合気道」と呼称、国内はもとより世界中にその名を広めました。

モデルコース

郷土の偉人・盛平翁を記念した碑

チェックポイント **植芝盛平翁記念碑** MAP P4 M-8
☎0739-26-9929 (田辺市観光振興課)
田辺市湊1(JR紀伊田辺駅前) 散策自由
徒歩で15分

植芝盛平記念館を併設する武道館前に建つ

チェックポイント **植芝盛平翁の銅像** MAP P4 M-8
☎0739-26-9929 (田辺市観光振興課)
田辺市扇ヶ浜2 散策自由
徒歩で25分

中華麺とうどんと一緒に炒めた「ちゃんぽん」が名物

はまちゃん
☎0739-25-5230 田辺市江川16-47
11:00~14:00、17:00~20:00 定休:月曜
徒歩で10分

生誕の地の記念碑と案内板

チェックポイント **植芝盛平翁生家跡** MAP P4 L-8
☎0739-26-9929 (田辺市観光振興課)
田辺市上の山2丁目12 散策自由
徒歩で30分

植芝家の菩提寺

高山寺(植芝盛平翁の墓)
☎0739-22-0274 田辺市稲成町392 境内自由
徒歩で25分

合気道の稽古参加体験も可能

合気道 田辺道場
☎0739-25-1100 田辺市稲成町798-15
見学は随時(要事前問い合わせ)、
合気道稽古体験は一般の部=月・水・金曜
20:00~21:00時頃 不定休
見学・体験ともに無料
徒歩で20分

紀州田辺の名産品蒲鉾・なんば焼

たな梅 本店
☎0739-22-5204 田辺市福路町39
8:30~17:30 無休
徒歩で10分

梅や柑橘類などを使った銘菓が好評

鈴屋菓子店
☎0739-22-0436 田辺市湊15-11
8:00~18:00 無休

田辺市立武道館(2020年10月オープン)
館内の2階には、盛平翁の功績を顕彰する記念館を併設



田辺市が生んだ偉人のひとり、合気道の開祖・植芝盛平。合気道を創始した武道家として数々の逸話を残しますが、幼少期は身体が弱く大人しい性格だったとか。しかし、父の勧めで近所の子供たちと相撲をとったり、田辺の山野を歩き回るなどして、心身ともに立派に成長しました。

合気道はいたずらに強弱を競いません。そのため試合はなく、お互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の錬成を図ります。この考え方は世界中に受け入れられ、合気道は今では世界140の国と地域で愛好されるまでになりました。そんな合気道開祖生誕の地を訪れて、合気道の精神に触れてみましょう。



植芝盛平翁記念碑

JR紀伊田辺駅の駅前広場に建つ碑は、郷土を代表する偉人のひとりである植芝盛平翁を記念したものです。亡くなる直前の1969年には田辺市名誉市民の称号が贈られ、没後は市葬も執り行われました。



植芝盛平翁生家跡

美しい海が見渡せる扇ヶ浜公園の一角に、盛平翁の銅像が凛々しい立ち姿で佇みます。これは同氏の華々しい足跡と功績を讃えたものです。銅像の向かいに建つ武道館の2階には、盛平翁を顕彰する記念館が併設されています。



植芝盛平翁の銅像

美しい海が見渡せる扇ヶ浜公園の一角に、盛平翁の銅像が凛々しい立ち姿で佇みます。これは同氏の華々しい足跡と功績を讃えたものです。銅像の向かいに建つ武道館の2階には、盛平翁を顕彰する記念館が併設されています。

秘話 盛平翁の逸話

盛平翁の怪力ぶりは、田辺市内の高山寺の道場にも残っています。盛平翁が壁に人さし指1本を押しつけただけの腕に、2人の柔道家がぶら下がりました。体重の合計は約150kg。ところが盛平翁は顔色ひとつ変えず、2人をぶら下げ続けたといいますが、生誕の地の記念碑と案内板があります。



吉田松陰も恐れた！幕末の開明家・国学者 水野忠央

詳細情報



人物 水野忠央 (みずの ただなか)
文化11年(1814)~慶応元年(1865)

紀州藩新宮3万5000石の領主。幕末に大老・井伊直弼と組んで紀州藩主慶福(將軍になってからは家茂)を14代將軍にするために全力を注ぎました。幕末の志士たち、特に長州藩士たちのリーダーだった長州の吉田松陰から「好にして才あり、一代の豪なり」と評された忠央は、一方では時代を先読みする進歩的な人物でもありました。蘭学、英仏語を学んでいた忠央は、内外の英才たちに蕃書翻訳所で西欧の原書を翻訳させ、洋式砲術や造船などを研究させました。

また、国学者としても優れ、古典籍をまとめた『丹鶴叢書』は新宮市の文化財として熊野速玉大社神宝館に保存されています。

モデルコース

沼に浮かぶ面積約5000㎡の浮島

浮島の森

☎0735-21-0474 新宮市浮島3-38
9:00~17:00(12~2月は~16:00) 無休
入場料=110円

徒歩で15分

歴代の新宮城主が眠る墓所

水野家墓所

☎0735-23-3368 (新宮市文化振興課)
新宮市橋本 散策自由

徒歩で15分

山上に鎮座する巨大な石が御神体
熊野の神々が最初に降臨した聖地

神倉神社

☎0735-22-2533 (熊野速玉大社)
新宮市神倉1-13-8 境内自由

徒歩で15分

しっとりとした食感と和三盆の
上品な甘さの鈴焼が名物

香梅堂

☎0735-22-3132 新宮市大橋通3-3-4
8:00~21:00(日曜は8:30~17:30) 不定休

徒歩で10分

当時の技術の粋を集めて
造られた堅牢な石垣が残る

新宮(丹鶴)城跡

☎0735-22-2840 (新宮市観光協会)
新宮市新宮丹鶴7691-1 散策自由

徒歩で10分

古代から蓬萊山を御神体と崇める
世界遺産の古社

阿須賀神社

☎0735-22-3986 新宮市阿須賀1-2-25 境内自由
新宮城に関する資料を展示

新宮市立歴史民俗資料館

☎0735-21-5137 新宮市阿須賀1-2-28
9:00~17:00 定休:月曜、祝日の場合翌日
入館料=210円



江戸後期、新宮城9代当主水野忠央は、紀州藩の江戸詰めの付家老であり、將軍継嗣問題にも深く関与するなど実力者として中央でも辣腕を發揮しました。その実力は政治面だけではなく、洋式砲術や造船、操船術などを研究、西洋式軍隊の編成に改め騎馬式訓練(丹鶴流)を採用するなど、武の面でも先見性を發揮。一方、学問や芸術に造詣が深く、歴史、文学、医学などの古典籍をまとめた書物『丹鶴叢書』を編纂・刊行し、江戸三大国書の一つとして高く評価されています。



水野家墓所

元和7年(1621)、初代新宮城主・水野重仲が死去した際に造られた墓所。歴代城主やその親族の墓碑16基が並び、9代城主である水野忠央もここに本葬されています。忠央をはじめとした、新宮城主を偲ぶ貴重な遺産です。



新宮(丹鶴)城跡

熊野川河口の小高い丹鶴山上に水野氏の新宮城が築かれていました。元和5年(1619)、それまで領地を治めていた浅野氏に代わり、水野重仲が入城。その後、10代にわたって水野家が統治し、新宮市は城下町として栄えました。当時の技術の粋を集めて造られた堅牢な石垣が残り、ありし日の姿を偲ばせています。

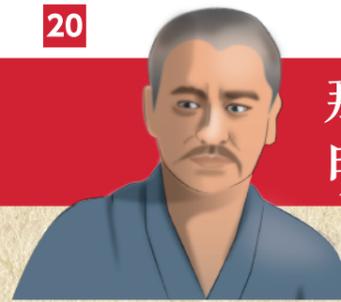


新宮市立歴史民俗資料館

阿須賀神社の境内にある資料館で、阿須賀神社の御神体である蓬萊山から発見された平安~室町時代の懸仏など、新宮や熊野信仰の歴史を伝える文化財を展示。また、「新宮(丹鶴)城」の資料や江戸時代の古地図も展示され、水野家が治めた当時の城下の様子を知ることができます。

秘話 將軍擁立を実現した熊野炭の経済力

紀州藩から將軍を誕生させ、中央でも強い影響力を誇った水野忠央。その背景には、良質な熊野炭の商いで培った経済力も。江戸へ送った熊野炭は年間15万俵近くあり、その量は江戸の消費量の3割にも達したとか。政敵からは「炭屋」や「土蜘蛛」と陰口を叩かれるほどだったとか。



那智の大自然に夢中？ 粘菌採集に明け暮れた南方熊楠の熊野滞在

詳細情報



人物 南方熊楠 (みなかた くまぐす)
慶応3年(1867)~昭和16年(1941)

和歌山県が生んだ博物学の巨星・南方熊楠は和歌山市橋丁に生まれました。幼少より抜群の記憶力に恵まれ、知的好奇心に満ち溢れていました。和歌山中学校(現・桐蔭高校)を卒業後、上京。明治17年(1884)に東京大学予備門に入学しますが、2年で退学し、帰郷しました。その後、19歳から約14年間、アメリカ、イギリスなどへ海外遊学。さまざまな言語の文献を使いこなし、国内外で多くの論文を発表しました。研究の対象は、変形菌(粘菌)のほか菌類・藻類等の植物学、人文科学等多方面にわたり、民俗学の分野では柳田国男と並ぶ重要な役割を果たしました。生涯、在野の学者に徹し、地域の自然保護にも力を注いだエコロジストの先駆けとしても注目されています。

モデルコース

133mの落差、水量ともに日本一を誇る滝

チェックポイント **那智の大滝** MAP P6 K-7
☎0735-55-0321 (熊野那智大社)
東牟婁郡那智勝浦町那智山 境内自由(社務所7:00~16:30) お滝拝所舞台=300円

車で10分

那智山での植物採集の拠点とした旅館跡

チェックポイント **大阪屋旅館跡** MAP P6 L-7
☎0735-52-5311 (那智勝浦町観光案内所)
東牟婁郡那智勝浦町那智山 外観は見学自由

車で10分

観音浄土を目指す補陀落渡海の出発点

チェックポイント **補陀洛山寺** MAP P6 M-9
☎0735-52-2523
東牟婁郡那智勝浦町浜ノ宮348 境内自由(拝観8:30~16:00)

車で10分

那智の大滝まで眺めることができる絶景カフェ

熊野カフェ
☎0735-30-4244
東牟婁郡那智勝浦町勝浦1069-1 9:00~18:00、20:00~23:00 (季節により時間変更あり) 定休:木曜

車で5分

熊楠の父・弥兵衛が創業した支店跡

南方酒造勝浦支店跡
東牟婁郡那智勝浦町築地2-4-16 外観は見学自由

車で5分

漁業の町として栄えた勝浦の歴史を紹介
ピン玉の縄編み体験も(要予約)

協仲倶楽部 入船館
☎0735-52-0034 (協仲倶楽部事務局)
東牟婁郡那智勝浦町勝浦496 8:00~17:00 無休(不定休あり) 入館料=無料

車ですぐ

かけ流しで加温もなし、涌いたままの湯が楽しめる

天然温泉公衆浴場はまゆ
☎0735-52-1201
東牟婁郡那智勝浦町勝浦970 15:00~22:00 定休:火・日曜 入浴料=400円



博物学の巨星、南方熊楠は、幼少期から驚異的な記憶力で「神童」と呼ばれ、明治17年(1884)には東京大学の前身である大学予備門に入学するが2年で退学し、明治19年12月にはアメリカへ渡りました。紆余曲折の後に熊楠は南紀に滞在し、勝浦や那智を拠点に熊野の原始林に分け入って変形菌(粘菌)や動植物の調査に没頭、顕微鏡標本や彩色図譜を作成しました。熊楠を魅了した那智の大自然をめぐり、大学生の一面に迫ってみましょう。



那智の大滝

133mの落差、水量ともに日本一を誇る滝。飛瀧(ひろろ)神社のご神体でもあり、古くから多くの人びとが詣でますが、熊楠が初めてこの名瀑を覗いたのは南紀に来て間もない明治34年(1901)11月1日のことでした。その後、この東側に広がる原始林を中心に植物調査をおこない、多くの成果をあげました。



大阪屋旅館跡

大阪屋は大門坂の登り口に江戸中期から大正時代まで8代続いた宿で、熊楠はここに明治35年(1902)から明治37年までの間、定宿として長期滞在し、那智山での植物採集の拠点としていました。熊楠の滞在した離れは昭和初期に焼失し、現在跡地は民家(見学不可)になっています。



補陀洛山寺

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」にも登録されている古刹で、かつては小舟で観音浄土を目指す補陀落渡海(ふだらくとかい)の出発点でした。ご本尊の十一面千手観音菩薩は国の重要文化財。日記によれば、熊楠は明治37年(1904)9月28日に当寺を訪問しており、田辺へ移住する数日前のことだったようです。

秘話 いまだ破られない南方熊楠の偉業とは？

世界でも権威のある学術雑誌のひとつに挙げられるイギリスの総合科学雑誌「ネイチャー」に掲載された南方熊楠の論文総数は、日本歴代第1位の51本。このトップの座を脅かす日本人科学者は、いまだ出ていません。

城下町新宮に息づく、世界レベルの「文化のDNA」

詳細情報



人物 東くめ (ひがし くめ)
明治10年(1877)~昭和44年(1969)

新宮市生まれ。11歳で大阪ウィルミナ女学院(現:大阪女学院)に入学し、賛美歌とピアノの音色に魅了され、音楽の道を志しました。日本で初めての口語体童謡『鳩ぼっぼ』『雪やこんこ』などを生み出しました。

西村伊作 (にしむら いさく)
明治17年(1884)~昭和38年(1963)

新宮市生まれ。男女共学の自由主義的教育を目指し、教授陣に与謝野晶子らを迎え東京神田に文化学院を創設。日本人の生活スタイル改善を目指して建築家としても活動するなどマルチな才能を発揮しました。

佐藤春夫 (さとう はるお)
明治25年(1892)~昭和39年(1964)

新宮市生まれ。故郷をこよなく愛した望郷の詩人。大正7年(1918)、谷崎潤一郎の推薦により『李太白』で文壇にデビュー。以来、『田園の憂鬱』などの作品を次々に発表し、たちまち新進流行作家となり注目されました。

モデルコース

『お正月』や『雪やこんこ』などを作詞

チェックポイント **東くめ『鳩ぼっぼ』歌碑** MAP P4 M-4
0735-22-2840 (新宮市観光協会)
新宮市徐福2-1-1 (JR新宮駅前) 散策自由

徒歩で5分

マルチな才能を発揮した西村伊作の邸宅

チェックポイント **旧西村家住宅(西村伊作記念館)** MAP P4 M-4
0735-22-6570 新宮市新宮7657
9:00~17:00 定休:月曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始 入館料=220円

徒歩で10分

紀州藩付家老水野氏の居城跡

新宮(丹鶴)城跡
0735-22-2840 (新宮市観光協会)
新宮市新宮7691-1 散策自由

徒歩で10分

国産鰻を背開きし、備長炭で地焼きした鰻は、身ふっくらで皮パリパリ

鹿六

0735-22-2035 新宮市元鍛冶町2-3-5
11:00~14:30、17:00~20:30
定休:月曜(祝日の場合は翌日)、不定休あり

徒歩で5分

邸宅を移築し記念館として公開

チェックポイント **佐藤春夫記念館** MAP P4 L-4
0735-21-1755 新宮市新宮1
9:00~17:00(最終入館16:30)
定休:月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
入館料=330円

徒歩で5分

江戸千家の流祖・川上不自が建立した供養塔がある

本廣寺
0735-22-2801 新宮市新宮656 境内自由

夏目漱石が歩いた和歌山の軌跡をたどる旅

詳細情報



人物 夏目漱石 (なつめ そうせき)
慶応3年(1867)~大正5年(1916)

東京生まれで、本名は金之助。明治26年(1893)、帝国大学英文科卒業後、中学教師を経てロンドンへ留学。帰国後は、帝国大学講師として英文学を教えました。講師のかたわら『吾輩は猫である』を雑誌『ホトトギス』に発表し、文壇に登場。明治40年(1907)、朝日新聞に入社し専属作家となり、『三四郎』、『それから』、『門』などを連載しました。その後、大病を患いますが『行人』、『こゝろ』、『道草』、など多数の代表作があります。『行人』では、主人公が和歌の浦を遊覧する様子が詳しく描かれています。

当時全盛の自然主義文学と異なる漱石の作風は余裕派と呼ばれ、近代日本の代表的作家とされています。

モデルコース

夏目漱石も石段を息を切らして上った寺院

チェックポイント **紀三井寺** MAP P5 E-6
073-444-1002 和歌山市紀三井寺1201
8:00~17:00 参拝料=200円

車で10分

神社裏の奠供山から漱石は和歌浦を一望
玉津島神社
073-444-0472 和歌山市和歌浦中3-4-26
境内自由(社務所9:00~17:00)

徒歩で10分

日本初の屋外用エレベーター
奠供山のエレベーター跡 MAP P5 D-6
和歌山市和歌浦中3-4-47 散策自由
*奠供山への入り口は玉津島神社の拝殿右側

車で5分

漱石も立ち寄った美しい砂浜
片男波公園
073-446-5553 (和歌公園管理事務所)
和歌山市和歌浦 散策自由

車で5分

華麗な社殿がそびえる「関西の日光」
紀州東照宮
073-444-0808 和歌山市和歌浦西2-1-20
9:00~17:00 社殿拝観料=300円

車で15分

秀吉が弟の秀長に命じて虎伏山に築城した
和歌山城
073-435-1044 (和歌山城整備企画課)
和歌山市一番丁3
天守閣9:00~17:30(最終入館17:00)
定休:年末 散策自由(天守閣は入場料410円)

車で25分

漱石が「現代日本の開化」と題し講演を行った
チェックポイント **旧和歌山県議会議事堂** MAP P6 J-2
0736-61-1160
((ねごろ歴史の丘)観光推進協議会事務局)
岩出市根来2347-22
9:00~17:00(最終入場16:30)
定休:火曜(祝日の場合は営業)、年末年始
入場無料



奠供山から見た和歌の浦

文豪・夏目漱石は明治44年(1911)8月に自ら希望して、和歌の浦に2日間滞在し講演を行いました。講演に先立ち、当時和歌の浦にあった「望海楼」という旅館を訪れます。夕方には旅館の裏手にあったエレベーターに乗り、玉津島神社背後の奠供山から和歌の浦を一望。その後、紀三井寺へ向かい、夕暮れの和歌の浦湾を眺めたそうです。翌日は新和歌の浦遊園地を見学し、紀州東照宮に立ち寄った後、片男波の砂浜へ。和歌の浦を訪れた際の様子は後に小説『行人』でも描かれ、多くの人の記憶に刻まれています。



紀三井寺
漱石は231段の石段を息を切らしながら上り、境内にあるベンチに腰を掛け夕暮れの和歌の浦湾を眺めたといえます。当時の観光用絵ハガキにも数多くその写真が使われています。漱石は小説『行人』の中でもエレベーターに乗った様子を描いています。

奠供山のエレベーター跡
明治43年(1910)に旅館「望海楼」によって建設された日本初の屋外用エレベーター。標高約30mの奠供山に上り、和歌の浦が一望できました。当時の観光用絵ハガキにも数多くその写真が使われています。漱石は小説『行人』の中でもエレベーターに乗った様子を描いています。



旧和歌山県議会議事堂
明治44年(1911)に漱石が「現代日本の開化」と題し講演を行った議事堂。明治31年に和歌山市一番丁に建築されたもので、昭和37年(1962)に岩出市の根来寺境内に移築されました。平成24年(2012)~平成27年の保存整備事業で、建築当初の姿に復元されています。木造和風意匠の県議会議事堂として現存する最古のものであり、国の重要文化財に指定されています。

秘話 夏目漱石も利用した、日本初の屋外用エレベーター

小説『行人』の中で「手摺りの所へ来て隣に見える東洋第一エレベーターと云う看板を眺めていた。此昇降器は普通のように家の下層から上層に通じているのとは違って地面から岩山の頂まで引き上げる仕掛けであった。」と漱石は描いた。往時の名残を感じさせる、アンカーボルトの跡が今も奠供山の頂上部分に残っている。



旧西村家住宅(西村伊作記念館)

新宮市は熊野速玉大社の門前町として古くから栄え、さらには杉や檜など熊野材の集散地としても繁栄しました。この地を治めた水野氏は江戸代府の付家老であったため江戸と深い関わりを持ち、海と山に囲まれた豊かな土壌の上に、他所からもたらされた文化が成熟したことで、多くの文人墨客を輩出しました。『秋刀魚の歌』などで知られる佐藤春夫、『鳩ぼっぼ』などの童謡を手掛けた東くめ、日本人の生活近代化を推進したモダニスト・西村伊作。表現者たる彼らの、新しいものを追及するエネルギーは、一体どこから湧いてきたのか。新宮城跡からの雄大な熊野灘や、文化薫る新宮のまちを眺めれば謎がとけるかもしれません。



東くめ『鳩ぼっぼ』歌碑
明治10年(1877)新宮で生まれた東くめは、後輩である滝廉太郎とのコンビで『お正月』や『雪やこんこ』などおなじみの童謡を手がけた作家。もとは音楽教師でしたが、幼児教育の先駆者だった夫の東基吉の影響で、童謡を手がけるようになったそう。代表作のひとつ、『鳩ぼっぼ』の歌碑は、新宮駅前広場にありま。



旧西村家住宅(西村伊作記念館)
佐藤春夫が昭和2年(1927)に建てたこだわりの邸宅を、東京から故郷の新宮に移築し記念館として公開しています。建物は西村伊作の弟が設計した洋館で、応接間やサンルームなどに佐藤のモダンな暮らしがうかがえます。書斎の公開だけでなく、自作詩歌の書、佐藤が描いた絵画、初版本など貴重な資料を展示しています。

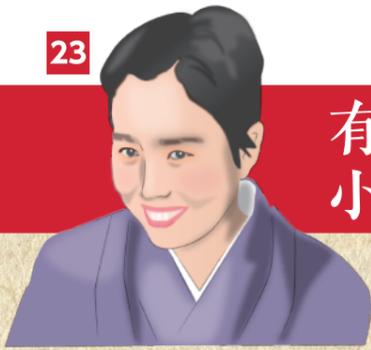


佐藤春夫記念館
佐藤春夫が昭和2年(1927)に建てたこだわりの邸宅を、東京から故郷の新宮に移築し記念館として公開しています。建物は西村伊作の弟が設計した洋館で、応接間やサンルームなどに佐藤のモダンな暮らしがうかがえます。書斎の公開だけでなく、自作詩歌の書、佐藤が描いた絵画、初版本など貴重な資料を展示しています。

秘話 和菓子の町、新宮

江戸時代に活躍した茶道家で、江戸千家流の祖である川上不自は、茶に添えて出す菓子の文化を新宮に根づかせました。新宮は不自の出身地ということもあり、「利休の再来」と謳われた茶人ゆかりの地に和菓子店が多いのも納得。毎年、不自を偲ぶ茶会も催されています。

有吉佐和子の代表作、小説『紀ノ川』の舞台を歩く



人物 有吉佐和子 (ありよし さわこ)
昭和6年(1931)～昭和59年(1984)

和歌山市に生まれた有吉佐和子は、幼少の頃、父の転勤により東京・インドネシアに移り住みました。昭和20年(1945)、和歌山に疎開し、県立和歌山高等女学校に通いますが、このときの体験が、のちの小説家活動に大きな影響を与えることになりました。昭和31年、『地唄』が芥川賞候補となり文壇に登場し、翌年には、『白い扇』が直木賞候補に。昭和33年、新作浄瑠璃『ほむら』で芸術祭文部大臣賞を受賞しました。

佐和子が県内で過ごしたのは、幼少期と戦時中に疎開したわずかな期間ですが、当時忌避されていた方言(紀州弁)が飛び交う作品を発表していることから、故郷に深く関心を寄せていたことが読み取れます。

モデルコース

作中では主人公・花が自分の乳房型絵馬を献上

チェックポイント 慈尊院 MAP P3 F-2
☎0736-54-2214
伊都郡九度山町慈尊院832 8:00～17:00

車で15分

花が紀の川を下り嫁ぐ道中、妹山・青山を船から眺める描写がある

チェックポイント 道の駅 紀の川万葉の里 (妹山・青山) MAP P6 N-2
☎0736-22-0055 伊都郡かつらぎ町窪487-2
直売所 8:30～17:00 定休:年末年始
レストラン10:00～16:00 定休:月曜、年末年始

車で20分

「桃源の郷 宮折 耕心院」の敷地内のかつて蔵だった場所を改装

自然薯茶屋からびな
☎0736-79-3559 紀の川市桃山町調月331
11:00～16:00(LO15:00)
定休:水曜(祝日の場合は翌日)

徒歩ですぐ

映画のロケ地となった紀州の大庄屋・津田家の屋敷

チェックポイント 桃源の郷 宮折 耕心院 MAP P6 J-3
☎090-5648-8927 紀の川市桃山町調月331
10:00～15:00 要予約 見学料=500円

車で35分

花の孫の華子が天守閣から紀の川を眺める場面が物語の最後

和歌山城
☎073-435-1044(和歌山城整備企画課)
和歌山市一番丁3
天守閣9:00～17:30(最終入館17:00)
定休:年末 散策自由(天守閣は入場410円)



朝焼けの紀の川

有吉佐和子の代表作『紀ノ川』は、紀州を舞台にした小説。旧家に生まれ、明治から第二次大戦後まで生きた、3世代(主人公の花、娘の文緒、孫の華子)の女性を描いた作品です。佐和子自身が和歌山出身であることから、紀州の情景が非常に繊細に表現されています。『紀ノ川』は後に映画化され、紀州の大庄屋の屋敷「桃源の郷 宮折 耕心院」や「和歌山城」などがロケ地となります。強くたくましく生きた女性たちの物語と、その生き様を見事に紡いだ佐和子に想いを馳せつつ、風情ある紀州で物語の舞台をめぐってみたいはいかがでしょう。

慈尊院

弘法大師空海が高野山開創の際に高野政所を置き、上皇や貴族が高野山への宿泊所とした場所。当時、高野山は女人禁制で、山麓の当院までなら参拝が許されたことから「女人高野」と呼ばれています。作中では主人公・花が自分の乳房型絵馬を献上、安産を祈った場所として描かれており、現在も子宝や安産、病氣平癒祈願で多くの女性が訪れています。



道の駅 紀の川万葉の里(妹山・青山)

紀の川を挟んで、道の駅 紀の川万葉の里から右手に青山、左手に妹山が見えます。この2つに愛しい人への想いを重ねて万葉時代に数々の和歌が詠まれました。花が紀の川を下り嫁ぐ道中、船から眺める描写があります。※妹山の場所は諸説あります。



桃源の郷 宮折 耕心院

映画のロケ地となった紀州の大庄屋・津田家の屋敷。白無垢を着た花の嫁入りシーンが撮影されました。敷地面積約1800坪の各所に造られた美しい庭園と、総部屋数25室、蔵4棟の大邸宅です。築400年以上の趣深い建物には屋久杉などの希少な材木が使われ、天井や柱、窓枠などの随所に伝統文化を感じる職人細工が施されています。

秘話 物語を彩った有吉佐和子の生い立ち

佐和子の幼少期は、父の仕事の関係で海外を含め各地を転々として過ごしました。多感な年頃のこの体験が、故郷への強い想いへと変わっていったのでしょうか。佐和子の小説には、紀州の風物詩や人情、紀北地方の優美な方言が登場します。昭和41年(1966)に松竹で映画化した際には、主人公の花役を司葉子が演じています。

生きながらにして神様? 「従一位」に叙せられた名君 徳川治宝



人物 徳川治宝 (とくがわ はるまき)
明和8年(1771)～嘉永5年(1853)

8代藩主重倫の2男として江戸藩邸に生まれました。幼名は岩千代と称し、9代藩主治貞の養子に。寛政元年(1789)、19歳で紀州徳川家を相続。第10代紀州藩主となり、中・下級武士を積極的に登用するとともに、藩士子弟の就学を義務づけ、学問の奨励に尽力しました。松坂の本居宣長を召し抱えたり、『紀伊統風土記』の編纂を30年余の歳月をかけて完成させるなど文化的事業にも積極的に取り組みました。最終的に従一位にまで叙せられましたが、御三家の当主で従一位にまでなったのは治宝だけです。

モデルコース

考古、歴史、美術、民俗などの資料を展示

和歌山市立博物館
☎073-423-0003 和歌山市湊本町3-2
9:00～17:00(最終入館16:30)
定休:月曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日
入館料=100円、高校生以下無料

車で10分
10代藩主・治宝が建立

チェックポイント 無量光寺 MAP P5 B-9
☎073-423-5738 和歌山市吹上5-1-35
7:00～16:30

車で15分

治宝の清遊の場、外来客の接待の場として造営された大名庭園

チェックポイント 養翠園 MAP P5 C-6
☎073-444-1430 和歌山市西浜1164
9:00～17:00 無休 入園料=600円

徒歩で5分

江戸時代に紀の川の南岸・西浜に築かれた堤防跡

水軒堤防
和歌山市西浜1188(水軒公園) 散策自由

車で15分

約50年前に屋台で創業した当時から変わらない味

中華そば まるやま塩屋店
☎073-445-7321 和歌山市塩屋5-5-5
11:00～0:00 定休:月曜(祝日の場合は翌日)

車で10分

勾欄(こうらん)部分の雲を文様化した彫刻に注目

チェックポイント 不老橋 MAP P5 D-6
和歌浦中3 散策自由

車で5分

特製クリームの「シューバリ」は20年来的ロングセラー

春栄堂
☎073-444-0571 和歌山市和歌浦中1-5-13
8:00～18:00 定休:日曜

車で50分

治宝の時代に発展を遂げた南紀男山焼窯場の様子を復元したジオラマなどで紹介

男山焼会館
☎0737-64-0881 有田郡広川町大字上野88-2
9:00～17:00 定休:月・火曜(祝日の場合は開館)、年末年始 入館料=無料



和歌山城

多くの業績を残した第10代紀州藩主・徳川治宝。紀州藩士の子弟の教育を義務化し、藩校学習館の整備や医学館などを開設して文武の発展に努めました。芸術にも造詣が深く、特に茶道の表千家や楽家を厚遇し、財政再建の政策のひとつとして、陶器場を開かせ南紀男山焼の発展を支援しました。文政7年(1824)に藩主の座を譲って隠居し、西浜御殿を住居としましたが、その後も藩の権力を握り続け、隠居政治期間を入れると64年もの長きにわたり権力の座に君臨しました。また、焼失した和歌山城の再建にも尽力しました。治宝ゆかりの地を巡りながら、大切に受け

継がれている多くの遺産に触れてみたいはいかがでしょう。

無量光寺

文政12年(1829)に第10代藩主・治宝が、日高出身の名僧、徳本上人の遺徳を偲んで建立。境内でひと際目を引くのが、高さ3mの「おぼとけさん」と呼ばれる首大仏。元は大福寺に祀られており、坐像になる計画が頓挫したまま当寺へ。頭部の事なら叶えてくれるという民間信仰が広まり、病氣平癒や合格祈願に多くの人が訪れています。※境内の鐘つきはご遠慮ください。



養翠園

治宝の隠居所、西浜御殿からの清遊の場、外来客の接待の場として文政元年(1818)から8年かけて造営された大名庭園。約3万3000㎡の園内にある、全国的にも珍しい海水を取り入れた汐入りの池には、海水魚の姿も。隣茶屋「養翠亭」や茶室「實際庵」など貴重な遺構が残ります。隣接地には湊御殿の一部も移築されています。



不老橋

片男波松原にあった東照宮御旅所の移築の際、治宝の命により、嘉永3年(1850)に着工、翌年に完成したアーチ型の石橋。勾欄(こうらん)部分の雲を文様化したレリーフの彫刻も必見です。



秘話 治宝に生前、御三家叙位最高位が贈られた秘密

本来であれば生きていた間に叙せられることのない従一位。徳川治宝は江戸時代を通して御三家の当主でただ一人、生前に従一位に叙せられました。治宝は涙を流して喜んだと伝えられていますが、実は、長く権力の座に居座り続ける治宝を喜ばせて、11代藩主斉順(将軍家斉の7男)に権力を譲らせようとした幕府の狙いがあったといわれています。



和歌山を発展させた徳川頼宣の都市計画と文化継承



人物 徳川頼宣 (とくがわ よりのぶ)
慶長7年(1602)~寛文11年(1671)

徳川家康の第10男として慶長7年(1602)、伏見城(京都市)で生まれました。幼名を長福丸と称し、2歳で水戸20万石の大名となり、慶長14年、駿河・遠江・東三河50万石の領主に。そして、元和5年(1619)、兄である2代将軍秀忠により転封され紀州55万5000石の大名となり、紀州徳川家の藩祖となりました。

頼宣は、和歌山城と城下町の整備など藩の繁栄の基礎を築きました。また、農民に対し年貢の税率を決める検見を公平にする法度を出し、家臣に対しては「御家御条目」を發布するなど、法令面でも多くの対策を打ち出しました。

モデルコース

紀州徳川家55万5000石の居城

和歌山城

☎073-435-1044 (和歌山城整備企画課)
和歌山市一番丁3
天守閣9:00~17:30 (最終入館17:00)
定休:年末 散策自由(天守閣は入場410円)

車で20分

南海道の総鎮護として頼宣公が創建

紀州東照宮

☎073-444-0808 和歌山市和歌浦西2-1-20
9:00~17:00 社殿拝観料=300円

車で3分

和歌山市指定の文化財

海禅院多宝塔

和歌山市和歌浦中3-4-28 境内自由

車で35分

頼宣は内外鳥居を再建し石灯笼などを寄進

野上八幡宮

☎073-489-2162 海草郡紀美野町小畑625
境内自由

車で40分

日本の棚田百選に選ばれ、四季折々の変化が楽しめる棚田

あらぎ島展望所

☎0737-52-2111 (有田川町商工観光課)
有田郡有田川町三田196 散策自由

車で5分

地域の名産品である山椒を使用したメニューが自慢

田舎cafeかんじゃ

☎0737-25-1315 有田郡有田川町宮川129
11:00~17:00 定休:月~金曜(祝日は営業)

車で90分

頼宣が使用した部屋は、「御成りの間」として宿泊も可能

上御殿

☎0739-79-0005 田辺市龍神村龍神42
チェックイン14:30・チェックアウト10:00
1泊2食付=15550円~(入湯税込み)



紀州東照宮

政治家として非常に優秀だった頼宣は、主産業である米作だけでなく、漆器の黒江塗やミカンの栽培など諸産業を奨励して紀州藩を大藩へと育てました。また、父・家康を祀った紀州東照宮、母・お万の方を弔うための海禅院の多宝塔など、数々の建造物も手掛け、戦国時代に廃された文化財の修復にも尽力しました。和歌の浦・雑賀崎の線の北側での大規模な開発に対し、線の南側には手を付けず名勝として残すなど、400年前の日本で景観の重要性和都市計画についても思慮をめぐらせた頼宣は、まさに希有な存在といえます。

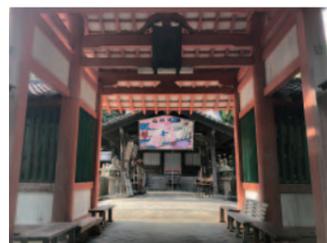


紀州東照宮

父家康の御廟として元和7年(1621)に頼宣公が創建。108段の階段を上った先、権現造りの本殿には、左甚五郎作と伝わる彫刻や狩野探幽作の壁画が飾られ、徳川家ゆかりの刀剣など美術工芸品も収められています。祭神として「東照大権現」家康公、頼宣公自身も「南龍大神」として祀られています。別名「関西の日光」。

海禅院多宝塔

家康の33回忌の際、側室で頼宣の実母であるお万の方が書写した経石を納める石室と、その上に小堂を建てたのが始まりとされます。お万の方の没後は、小堂が多宝塔に改築され拝殿と唐門も設けられました。明治維新後は荒廃しましたが昭和42年(1967)に和歌山市指定の文化財に。多宝塔は平成6年(1994)から3年をかけ修復されました。



野上八幡宮

創建は欽明天皇の時代にさかのぼり、永延元年(987)に石清水八幡宮の別宮に。社殿や財宝の焼失、社領の没収といった災難を経て、弘治3年(1557)真賢上人が再建に着手し、本殿拝殿等を復興。頼宣は内外鳥居を再建し、絵馬額の奉納、石灯笼なども寄進しました。

秘話 頼宣の望遠鏡

頼宣は家康から望遠鏡をもらい、和歌山城の櫓から望遠鏡で城外をのぞいては家臣の様子を観察していました。付家老である安藤直次は、「主君たるものは家臣らの私的な行動を人知れず見るようなことはするものではない」と望遠鏡を壊して頼宣を戒めたそうです。



日本一の弓術家・和佐大八郎の偉業をたどる



人物 和佐大八郎 (わさ だいはちろう)
寛文3年(1663)~正徳3年(1713)

紀州藩士である和佐森右衛門実延の子として、和佐村(現在の和歌山市和佐)に生まれました。幼少より膂力に優れその才能に恵まれた大八郎は、紀州竹林派の名師・吉見台右衛門に師事し弓術を学びました。

貞享3年(1686)、大八郎が24歳のとき、京都の三十三間堂の「通し矢」に挑戦し、一昼夜に8133本を成功させた大記録を達成しました。帰藩した大八郎は人々の称賛に迎えられ、この功により同年300石、貞享5年500石で射手役、元禄2年(1689)弓術印可、元禄8年頭役、翌年、近習頭役となりました。

モデルコース

和佐大八郎が使用した弓を展示

田辺市立弓道場 MAP P4 K-7
☎0739-25-2531
(田辺市教育委員会スポーツ振興課)
田辺市目良42-1 8:00~21:30
定休:年末年始 使用料=1260円

車で5分

和佐大八郎のお墓がある歴史ある寺

浄恩寺 MAP P4 L-8
☎0739-22-2852 田辺市古尾25-12
4~9月18:00、10~3月17:00に閉門

車で5分

田辺市特産の海藻・ひとはめ・シメサバを包んだひとはめ寿司が名物

宝来寿司

☎0739-22-0834 田辺市湊18-12
10:00~21:00 定休:月曜

徒歩で5分

江戸時代の子どもの「おけし頭」をモチーフにした「おけし餅」が人気

辻の餅

☎0739-22-1665 田辺市北新町1
8:30~17:00 定休:火曜(不定休あり)

車で75分

田辺市で亡くなった和佐大八郎が埋葬されている

和佐大八郎の墓 MAP P6 H-3
和歌山市苅宜 散策自由



和佐大八郎が使用していた弓(田辺市立弓道場)

田辺市立弓道場

近的、遠的を併設した西日本最大級の弓道場。12人が一堂に立つことができる近的の弓道場は珍しく、平成27年(2015)の和歌山国体で弓道競技の会場にも使用されました。館内には、和佐大八郎が使用していた弓が展示されており、施設利用者は見学することができます。



浄恩寺

田辺城跡の川向かいに3軒並ぶ寺のひとつで「江川三ヶ寺」と呼ばれています。寺内には、和佐大八郎の墓碑があり、大八郎の末裔から譲り受けた豪弓も祀られています。弓は三十三間堂通し矢のものだけではなく、練習用に使われていた貴重なものもあり、その太さと重さは通常の倍ほども。大八郎のストイックさがうかがえます。



和佐大八郎の墓

51歳の時、田辺で亡くなった大八郎の遺骨が、田辺の浄恩寺と共に和佐家の墓所であるこちらに埋葬されています。矢田峠の北側、道路沿いに目印として看板が立っています。

秘話 和佐大八郎が田辺市に流された理由とは?

既婚の婦人に恋文を送るということが大きな罪に問われる時代、突如大八郎の妻の元に恋文が届きました。大八郎はなぜか差出人を調査しませんでした。後日、差出人が大八郎の弟と判明。大八郎が弟をかばう形で家来に罪を被せようとしたことで藩主の逆鱗に触れ、和歌山市から田辺市に流されたといわれています。



「奇想の画家」長沢芦雪が南紀でみせた目醒めの足跡

詳細情報



人物 長沢芦雪 (ながさわ るせつ)
宝暦4年(1754)~寛政11年(1799)

宝暦4年(1754)京都・篠山に丹波篠山青山下野守家臣、上杉彦右衛門の子として生まれました。応挙のもとに入門した時期は定かではありませんが、数多き応挙の子弟の多くは町人である中、武士の芦雪は異色の弟子でした。

応挙の高度な作風を完璧に身につける卓越した描写力に加え、奇抜な着想と大胆な構図、奔放で独特な画風を創出した芦雪は「奇想の画家」といわれています。画風は概して快活で明るいのが特徴ですが、晩年の頃からは時折、陰惨なグロテスクへの傾倒が見られ、芦雪の心境の変化についてさまざまな憶測が広がっています。

申本の無量寺に長く滞在し、創作活動を行いました。

モデルコース

芦雪は当寺滞時に数点の作品を描き上げた



高山寺 MAP P4 M-7
☎0739-22-0274 田辺市稲成町392 境内自由

車で70分

天然の地魚にこだわる寿司店

松寿司
☎0735-62-0728
東牟婁郡申本町申本1735-91
11:30~14:00(LO13:30)、
17:00~21:00(LO20:30) 不定休

車で5分

芦雪の代表作「虎図」「龍図」などの作品を所蔵



無量寺 MAP P4 H-9
☎0735-62-0468(無量寺)
☎0735-62-6670(申本応挙芦雪館)
東牟婁郡申本町申本833
申本応挙芦雪館、方丈障壁画及び
収蔵庫拝観料=1300円 境内自由

車で10分

国産小麦を使って焼きあげるパンがずらり

nagi
☎0735-65-0065 東牟婁郡申本町大島1158
9:00~18:00 定休:月・火曜(祝日の場合は営業)

車で20分

芦雪作とされる水墨画を代々受け継いできた

徳泉寺
☎0735-62-3473 東牟婁郡申本町蘭野川1214
拝観料=無料 ※事前に要連絡

車で25分

芦雪が南紀歴訪の際に最初に訪れた寺



成就寺 MAP P4 H-9
☎0735-72-0754 東牟婁郡申本町西向396
境内自由



虎図(無量寺)

江戸後期を代表する絵師・円山応挙。その門下のなかでも異彩を放つのが、長沢芦雪です。京を拠点とした絵師でしたが、天明6年(1786)に10ヵ月ほど南紀に滞在し、無量寺や成就寺などで筆を執り270点余りの作品を残しています。注目すべきは自由奔放な画風。応挙の元で培った写生重視の表現とは異なる、大胆で独創的な構図、筆遣いです。芦雪の才能を目覚めさせた地の空気を感じながら、その足跡をめぐってはいかがでしょう。



高山寺
聖徳太子の草創で、弘法大師により中興された古刹。芦雪は短期間の高山寺滞時に、「寒山拾得図」など数点の作品を描き上げました。当時の住職が芦雪の経歴や滞在を記録(県指定文化財)、これほど詳細に芦雪について語られた書物はほかにありません。これらは和歌山県立博物館に保管され、企画展などで鑑賞できます。



無量寺
芦雪が南紀を訪れるきっかけとなった、臨済宗東福寺派の別格寺院。芦雪の代表作とされる「虎図」「龍図」など多数の作品を所蔵するほか、境内の申本応挙芦雪館では室町、桃山、江戸時代の絵画を公開。さらに本堂では芦雪のデジタル再製画を当時のままの配置で展示、空間構成の妙を感じながら鑑賞することができます。



成就寺
京都東福寺虎関派の海蔵院を本山とする寺院。芦雪が南紀歴訪の際に最初に訪れた寺として伝わり、45面もの襖絵を所蔵しています。鋭い観察眼がうかがえる「群雀図」や、濃墨の画法が印象的な「唐獅子図」、大胆な構図に芦雪の優れた感覚がみられる「林和靖図」など名筆も多数(すべて和歌山県立博物館保管)。

秘話 応挙の言葉から生まれた芦雪のシンボルマーク

修業に励む冬の朝、芦雪は氷の中に閉じ込められた魚を見かけました。その後氷が溶け自由に泳ぐ魚の姿に驚き、話したところ「苦しい修業時代も氷が溶けるが如く画の自由を得る」と諭され、それ以来氷の枠に入った「魚」印を印章としたそう。ちなみに後年の印章は枠の一部が欠落しており、自由を得たと伝えているとの見方も。



行きたい街道日本一！ 司馬遼太郎も旅した道・古座街道をゆく

詳細情報



人物 司馬遼太郎 (しば りょうたろう)
大正12年(1923)~平成8年(1996)

大阪生まれ。大阪外国語学校蒙古語部(現大阪大学外国語学部)卒業。産経新聞文化部に勤めていた昭和35年(1960)、『梟の城』で直木賞受賞。以降、歴史小説を一新する話題作を次々と発表しており、昭和41年(1966)、『竜馬がゆく』、『国盗り物語』での菊池寛賞をはじめ数多くの賞を受賞します。『坂の上の雲』、『翔ぶが如く』、『功名が辻』といった小説の他、紀行、エッセイ、対談など多数の作品を世に送り出しており、平成5年(1993)には文化勲章を受章しました。

著書『街道をゆく』では古座川を絶賛しています。

モデルコース

作中に登場する2段の美しい滝



雲の滝 MAP P3 G-8
☎0739-34-3200(すさみ町観光協会)
西牟婁郡すさみ町小河内 散策自由

車で40分

かつて熊野の奥地と古座川下流との物資運搬のため、川港として栄えた

真砂集落跡・真砂の舟着ぎ場跡
☎0735-72-0180(古座川町地域振興課)
東牟婁郡古座川町真砂 散策自由

車で20分

柚子を使った加工品づくりを体験

体験交流 古座川ゆず平井の里
☎0735-77-0123 東牟婁郡古座川町平井469
体験時間13:00~17:00(事前予約が必要)
受付時間8:30~17:00 定休:土・日曜、祝日
体験料:1500円~

車で30分

ブルーベリー農家がつくる絶品ジャムがおすすめ

坂本天正堂
☎0735-75-0021 東牟婁郡古座川町三尾川466
9:00頃~17:00頃 不定休

車で10分

古座川の名勝「一枚岩」を眼前に食事ができる

道の駅「一枚岩」monolith
☎0735-78-0244 東牟婁郡古座川町相瀬290-2
飲食・物産(火~日曜)8:30~17:00
※第3土曜はテイクアウトメニューのみ。繁忙期(3・4・7・8・11月)は通常営業
物産のみ(月曜)10:30~17:00 不定休

車で15分

川の中に浮かんでいるように見える河内島が御神体



河内神社 MAP P4 H-8
☎0735-72-0180(古座川町地域振興課)
東牟婁郡古座川町宇津木171 ※選拝所から参拝

車で5分

古座川町での「若衆組」の拠点だった若衆宿・互盟社



青年会「互盟社」 MAP P4 I-9
☎0735-72-0180(古座川町地域振興課)
東牟婁郡古座川町高池 外観は見学自由



古座川の一枚岩

周参見川を上流に向かい、獅子目峠を經由し古座川を河口へと進む「古座街道」。司馬遼太郎『街道をゆく』シリーズに登場しているほか、朝日新聞の会員アンケートで「行きたい街道日本一」に選ばれるなど、全国的にも人気の高い街道です。自然の生命力あふれる景勝はこのルートの魅力。また、歴史の名残を目にできるのも古座街道ならではの。紀伊半島南端の自然・歴史・文化の息遣いを感じながら、司馬遼太郎が旅した街道をたどりましょう。

雲の滝

獅子目峠の手前、県道38号沿いにある周参見川本流にかかる滝。落差は約30mで2段に分かれた姿は美しく、滝壺の透き通るようなグリーンもさわやかです。夏は涼しく、アユやアマゴ釣りの人でにぎわいます。司馬遼太郎は本のなかで「道路上にまで雲が舞い上がってくるからそういう名がついたのにちがいない」と述べています。

河内神社

川の中に浮かんでいるように見える小さな島・河内島を御神体とする河内神社。社殿はなく、島を望める河岸の宇津木に選拝所があります。国の重要無形民俗文化財に指定されている「河内祭」が行われ、古座川河口から上ってきた3隻の御船が巡航する勇壮な様子を見ることが出来ます。



青年会「互盟社」

土地の若者男子で組織され、婚姻するまで一人前になるよう教育される「若衆組」。明治以降衰退していき、昭和の初めにはなくなったこの風習ですが、古座川町ではその拠点だった若衆宿・互盟社が残っています。司馬遼太郎は『街道をゆく』の作中で、この「若衆組」に思いを馳せながら旅をしています。

秘話 一枚岩にまつわる守り犬伝説

「古座川の一枚岩」に伝わる民話「一枚岩の守り犬伝説」。岩が好物な魔物が岩を食らいながら古座川を上っていき、そしてついに一枚岩を食べようとした時、魔物を見つけた犬が吠えて追い払ったというもの。年に2回、午後5時前の数分だけ岩壁に犬によく似た影が映る現象が数年前から話題です。